卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に
津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.

国生みの島 淡路島　弥生後期の淡路島北部の津名丘陵
海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ山間地集落群が出土

淡路島北部　弥生後期の山間地集落遺跡群群の中心集落「淡路市　舟木遺跡」
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
2017. 1. 26.　神戸新聞他の朝刊より

鉄器の交易なりわいか
淡路に近畿最大の工房跡
「海の民」との関係も推認
邪馬台国前の社会、解明期待

淡路 弥生期の鉄器拠点
舟木遺跡
工房跡発見、近畿最大か
「五斗長垣内」近く 小型工具も出土

明石海峡越しに旗振り山から眺める淡路島北部中央を南へ伸びる津名丘陵

国生み神話の淡路島が　卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす?

淡路島日本遺産　弥生後期から終末期　津名丘陵の山間地集落群の中心集落　舟木遺跡探訪　2018.8.29.

◎ 淡路島北部 瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷 淡路市野島

◎ 畿内に先駆けて鉄器化を取り入れ、鉄器加工や製塩など生産工房群を展開した山間地集落群の中心 舟木遺跡を訪ねる

卑弥呼の時代を解き明かす? 淡路島

弥生後期の大山間地集落群 淡路市舟木遺跡から弥生期の鉄製ヤスが出土

海の民や北部九州とのつながりを示す？　2018.3.23. 神戸新聞より

本年1月ご紹介した淡路島の北部津名丘陵 弥生後期の大山間地集落群の中心集落遺跡淡路市舟木遺跡から「かえし」があるなど弥生時代の北部九州の鉄器加工の先端化技術で作られた鉄製のヤスが出土した。

国生み神話があり、国内最大級の弥生の鍛冶工房村五斗長垣内遺跡の出土。そして、時代の大転換を示す多数の初期埋納銅鐸松帆銅鐸の出土している淡路島。弥生時代から古墳時代への大きな転換期　卑弥呼の時代に「淡路島が重要な役割を果たした」との期待がにわかに高まってきた。

国づくりが始まる当時の最重要課題は朝鮮半島の鉄素材の確保とその交易の覇権。

そんな中で、淡路島の北部津名丘陵には、各種生産工房を有し、交易を生業とすると考えられる淡路市「舟木遺跡」を中心とする大山間地集落群の存在が明らかになってきた。

新しい時代を開く集落群として注目を集め、淡路島の海岸部には野島や三原の海人とよばれる瀬戸内海を庭とする海の民がいることもあって、「淡路島の交易ネットワークが卑弥呼の時代の謎を解き明かすのではないか?」との期待の元にわかに脚光を浴びている。

そんな昨今　淡路島の発掘調査に注目が集まる中、 3月23日淡路市舟木遺跡で弥生時代の「かえし」のある鉄製ヤスが、出土し、北部九州から持ち込まれたと考えられるとの新聞報道が関西に大きく流れた。

弥生期の鉄製ヤス出土

高度な技術 九州などから流通か

2018.3.23. 神戸新聞 朝刊

淡路島北部 弥生後期の山間地集落遺跡群の中心集落「淡路市 舟木遺跡」

近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土

2017. 1. 26. 神戸新聞他の朝刊より

鉄器の交易なりわいか

「海の民」との関係も推認

淡路に近畿最大の工房跡

邪馬台国前の社会 解明期待

淡路 弥生期の鉄器拠点

舟木遺跡

工房跡発見、近畿最大か

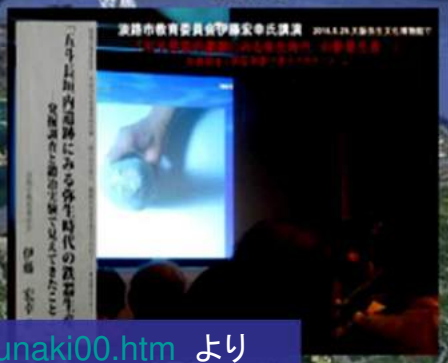
「五斗長垣内」近く 小型工具も出土

弥生時代後期　淡路島北部に現れた
淡路島特有の生産工房を有する山間地集落群 & 周辺集落の推移
五斗長垣内遺跡や舟木遺跡もそんな山間地集落群の一つである

2016.5.28. 大阪弥生文化博物館2016年春季特別展セミナー

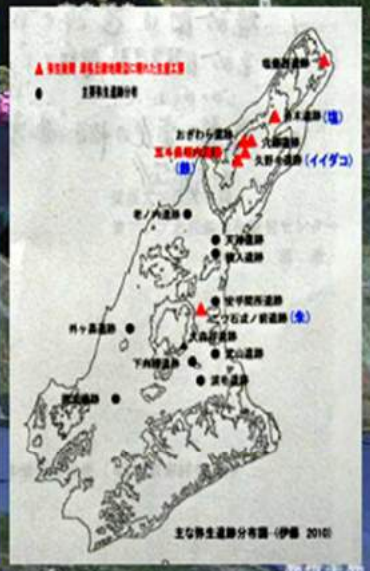
淡路市教育委　伊藤宏幸氏講演資料より

「和鉄の道」 http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm より



No.	遺跡名	立地（標高）	時期 前期	中期	後期	終末期	特徴
1	天神遺跡	15m	■	■			大陸系磨製石斧、石包丁
2	境入遺跡	10m	■	■			水田
3	舟本下林遺跡	17m			■		
4	伊遺跡	10m					
5	富島遺跡	5m					製塩土器
6	畑田遺跡	5m					製塩土器
7	貴船神社遺跡	5m				■	製塩土器
8	五斗長垣内遺跡	200m			■		敲き遺構・鉄器・赤色顔料・イイダコ壺
9	舟木遺跡	190m			■	■	大型穴建物跡・製塩土器
10	山ノ神遺跡	197m			■		合石・鉄器
11	神ノ平遺跡	210m			■		大型穴建物跡・合石・鉄器・イイダコ壺
12	穴郷遺跡	260m					イイダコ壺
13	久野々遺跡	270m			■		袋状鉄斧
14	おぎわら遺跡	260m			■		ヤリガンナ
15	大坂遺跡	100m			■		製塩土器・土錘
16	行合野遺跡	105m			■		製塩土器
17	秀山遺跡	122m			■		大型穴建物跡
18	尼ヶ岡遺跡	130m			■	■	
19	塩壺西遺跡	60m			■		大型鉄鏃・鉄土坑
20	塩壺遺跡	40m			■		

凡例　■…遺構を検出　…遺物が出土



津名丘陵周辺　稲作が行えぬ高地に出現した軍事的性格を持たぬが、
生産工房など多様な生活様式を営む弥生時代後期の集落遺跡群。
島では海岸よりもく山間地を貫く方が幹線道路として機能しやすかった事情で生まれたとする向きもあり、
流通の拠点集落と考えられている　五斗長垣内遺跡も山間集落群の一つ
また舟木遺跡は終末期までも続く山間地集落遺跡の中心とみられている。

淡路島北部　弥生後期の山間地集落遺跡群群の中心集落「淡路市　舟木遺跡」
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
2017. 1. 26.　神戸新聞他の朝刊より

鉄器の交易なりわいか

淡路に近畿最大の工房跡

「海の民」との関係も推認

邪馬台国前の社会、解明期待

多数出土した小型砥石

淡路 弥生期の鉄器拠点

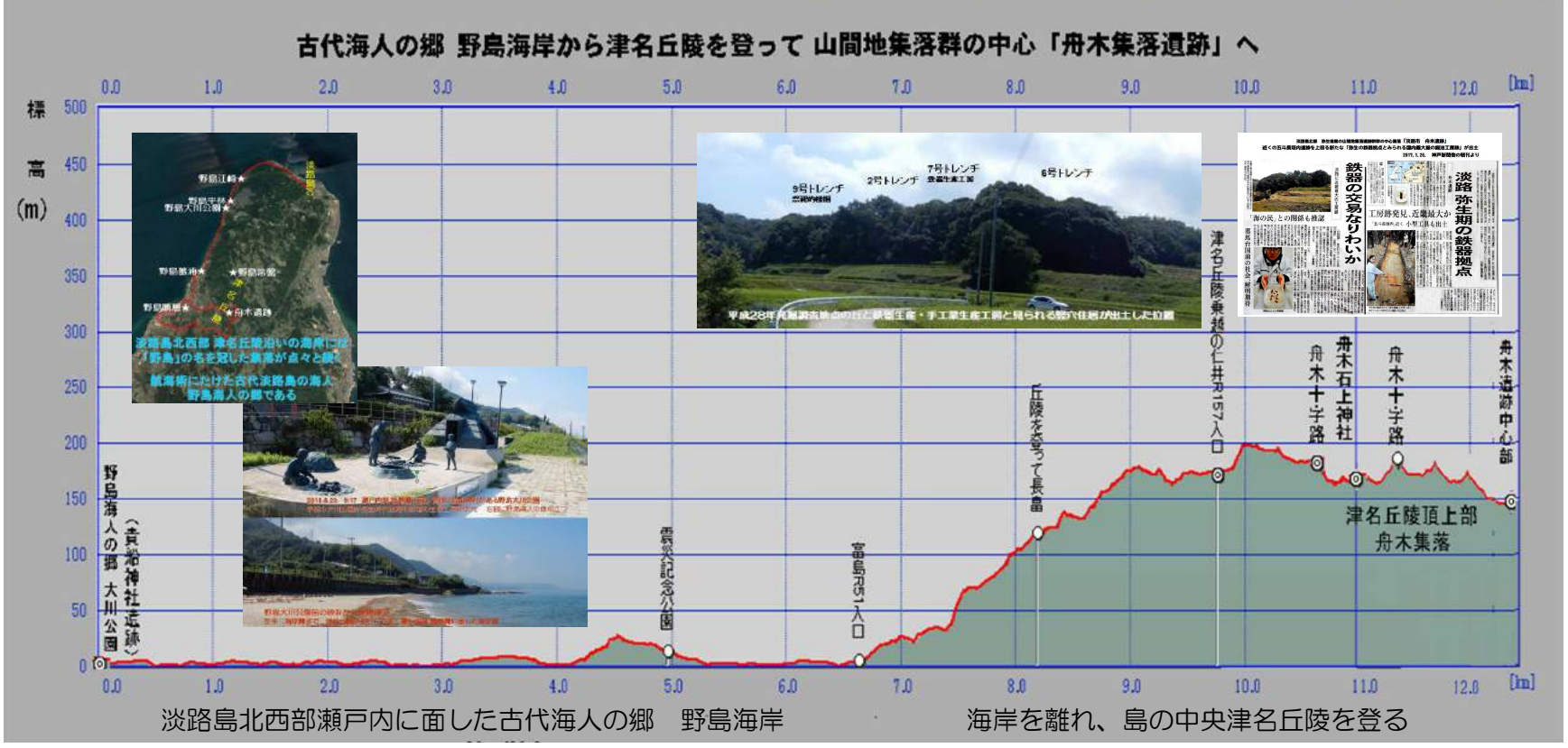
舟木遺跡

工房跡発見、近畿最大か

「五斗長垣内」近く　小型工具も出土

伊藤さんが確認された工房の遺構。土が赤っぽくなっている＝10日、舟木遺跡（撮影・伊藤武士）

主な弥生遺跡分布図（伊藤　2010）



淡路島北西部瀬戸内に面した古代海人の郷　野島海岸　　海岸を離れ、島の中央津名丘陵を登る

卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に

弥生時代後期　津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.

1. 淡路島の西北部海岸　野島海人の郷　野島
弥生後期の製塩工房　貴船神社遺跡　淡路市野島大川
2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点
弥生後期 鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木

国生みの島 淡路島
淡路島北部を南北に走る津名丘陵　その西北域の海岸は航海術にたけた古代野島海人の里
航海術にたけ、朝鮮半島・日本各地と交易する淡路の海人の大和との密接な関係が記紀に記載されている
（淡路島の海人のルーツは安曇族といわれ、
国生み神話の原型もこの海人たちの伝承を初期大和王権が取り込んだとの説もある。）
また、この弥生後期からは古墳時代初期にかけ、背後の丘陵には「舟木遺跡」を中心に山間地集落群が出土し、集落には海人と密接な関係を示す鉄鍛冶・製塩などの生産工房があり、交易拠点の姿が浮かび上がってきている。
鉄製産技術がなく、朝鮮半島の鉄に頼るこの時代　淡路島は畿内に先駆け鉄器文化を持ち込み、その生産拠点として　国づくりの先端を走った実像が見えてきた
国生みの神話が実像に　淡路島が今注目されている。
国内最大級の鍛冶工房村　五斗長垣内遺跡の出土以来　何度もでかけたこの淡路島北西部沿岸の丘陵地ですが、五斗長垣内遺跡以外に山間地集落周辺を歩いたこと無し。
ぜひとも　舟木遺跡周辺を歩いてみたいと期待をつのらせながら、この夏の終わり淡路島へ

明石海峡越しに旗振り山から眺める淡路島北部中央を南へ伸びる津名丘陵

国生みの島 淡路島
淡路島北部を南北に走る津名丘陵
その西北域の海岸は古代野島海人の里
朝鮮半島・日本各地と交易する淡路の
海人は大和との密接な関係が記紀に記
載されている
また背後の丘陵からは
舟木遺跡を中心に海人と密接につなが
る鉄器加工・製塩などの生産工房を持
つ山間地集落群が出土
淡路島は畿内に先駆け鉄器文化を持ち
込み、その生産拠点として　国づくり
の先端を走った実像が見えてきた
国生みの神話が実像へ

至神戸・大阪
淡路市
野島
江崎
305
平林
岩屋
田之代
鵜崎
長浜
森木
谷山
鄭場山
常盤
東浦IC
補本
小倉
中持
浦
富島
石田
長島
水越
浅野

野島海人像

淡路島北部 津名丘陵
海人族と関係が深い山間地集落群
▲ 弥生後期 津名丘陵地帯に現れた生産工房
● 主要弥生遺跡分布
塩壺西遺跡
おぎわら遺跡
五斗長垣内遺跡
(鉄)
久野々遺跡 (イイダコ
老ノ内遺跡
天神遺跡
横入遺跡
安乎岡所遺跡
石或ノ前遺跡 (朱)
外ヶ島遺跡
大森谷遺跡
荒山遺跡
下内膳遺跡
波毛遺跡
主な弥生遺跡分布図 (伊藤 2010)

津名丘陵沿いの淡路島北西部の
海岸 「野島」は 野島海人の郷
野島江崎★
野島平林★
野島大川公園★
野島蟇浦★
★野島常盤
野島断層★
★舟木遺跡
淡路島IC
津名丘陵
Google

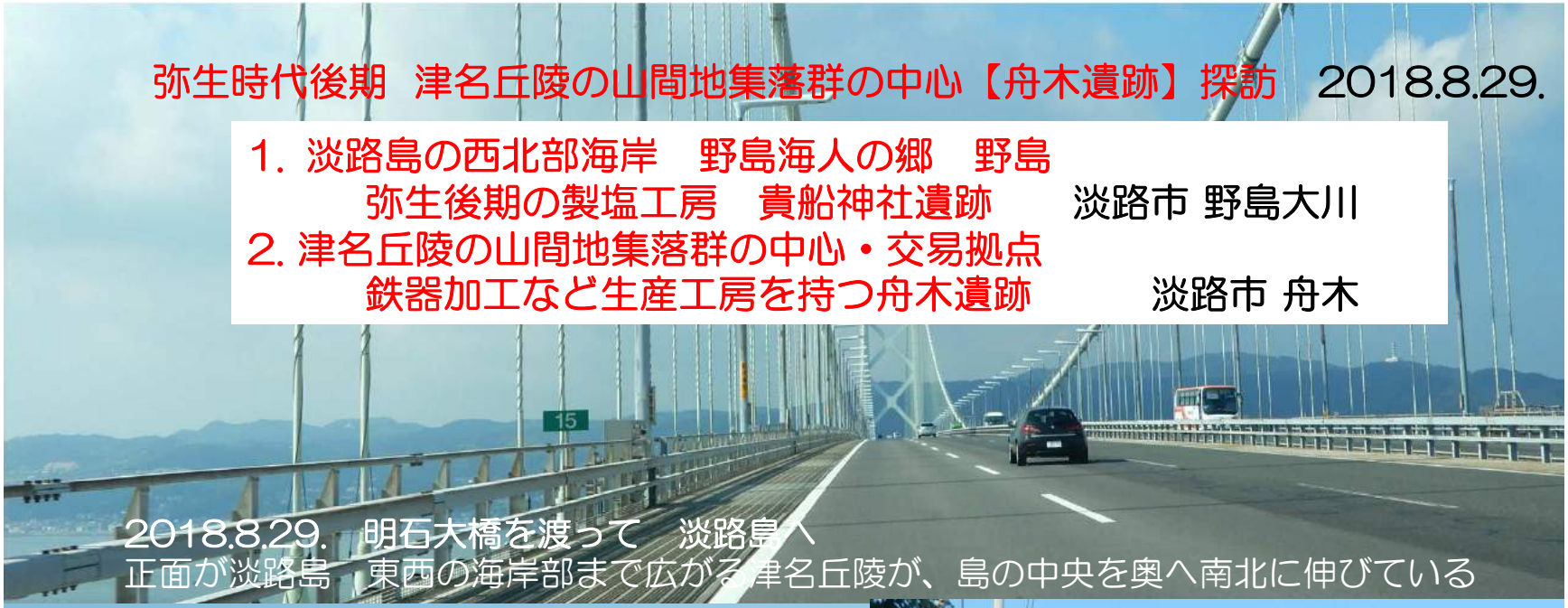
津名丘陵の丘陵上にある舟木遺跡へは淡路ICをでて、淡路島北西部　西に播磨灘が広がり、東は南北に伸びる津名丘陵際の狭い海岸沿って集落が続く一本道を南へ。
野島大川にある野島の海人像や古代の製塩作業が再現されている大川公園を見て、さらに南の富島漁港の海岸部　野島断層が展示されている北淡震災記念公園へでる。
そこから、東へ入り組んだ丘陵地の中　集落や田園が段々に幾つも広がる津名丘陵に登り、舟木遺跡のある舟木集落へ。丘陵地というより、山は低いが、幾つもの枝谷が入り組んだ山麓の感がする。

地図では舟木集落が記載されて入るが、集落内は丘陵地の上部幾つもの丘に小さな道が入り組んで記載されていているのみで、集落内を遺跡への道は難しいと聞く。
また、舟木遺跡は私有地で、すでに埋め戻され、勝手に遺跡の周知には入れず、道もよくわからないだろうと。「集落・舟木遺跡の中心部にある石上神社まで行けば、舟木遺跡周辺の地理的状況がわかるだろう」と聞く。
幸い舟木集落・舟木遺跡の中心部　磐座のある石上神社へのドライブナビが入ったので
これを頼りに車を走らせることにして、8.29.朝　9時過ぎ、淡路ICをでる。
播磨灘に面した淡路島北西部の海岸を南へ野島の海岸部大川にある野島の海人像や古代の製塩作業が再現されている大川公園を経て、野島断層が展示されている震災記念公園へ。

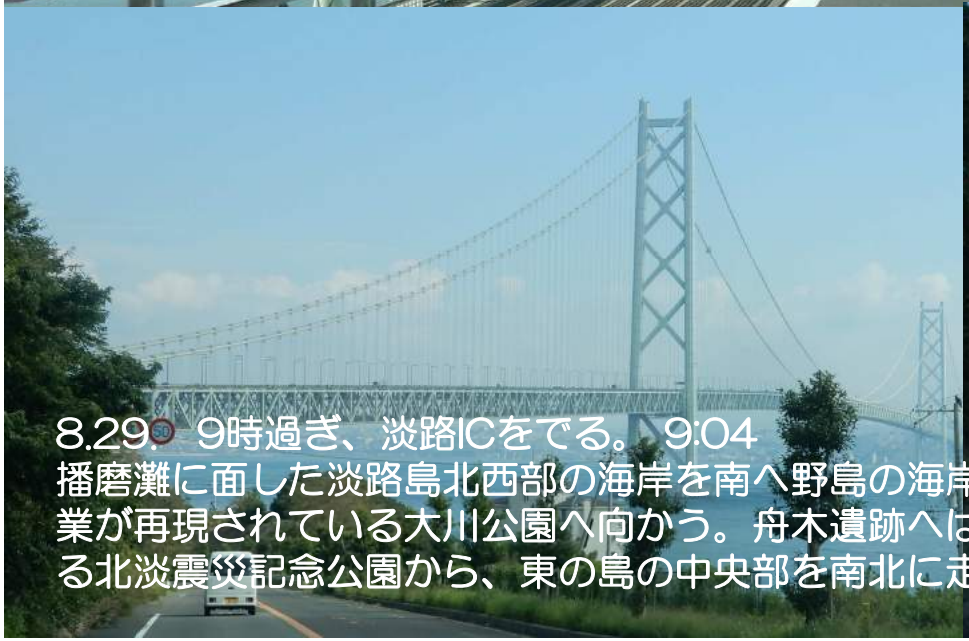
舟木集落の位置は山は低いが、幾つもの枝谷が入り組んだ山麓の感。
地図には舟木集落が記載されて入るが、集落内は丘陵地の上部幾つもの
丘に小さな道が入り組んで記載されていているのみである。
また舟木遺跡は私有地ですでに埋め戻され、
勝手に遺跡の周変には入れず、道もわかりにくいと聞く。
自動車のナビに頼って舟木石上神社まで登ってゆくことに。

弥生時代後期　津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.

1. 淡路島の西北部海岸　野島海人の郷　野島
　　弥生後期の製塩工房　貴船神社遺跡　　淡路市 野島大川
2. 津名丘陵の山間地集落群の中心・交易拠点
　　鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡　　淡路市 舟木



2018.8.29.　明石大橋を渡って　淡路島へ
正面が淡路島　東西の海岸部まで広がる津名丘陵が、島の中央を奥へ南北に伸びている



8.29.　9時過ぎ、淡路ICをでる。 9:04
播磨灘に面した淡路島北西部の海岸を南へ野島の海岸部大川にある野島の海人像や古代の製塩作業が再現されている大川公園へ向かう。舟木遺跡へはさらに南へ下り、野島断層が展示されている北淡震災記念公園から、東の島の中央部を南北に走る津名丘陵へ登る。

南北に伸びた津名丘陵が海岸部に迫る淡路島北西部の絵画沿い県道31号線を南に車を走らせる。
点々と連なる「野島」を冠した集落は古代野島海人の郷

淡路島は、緑あふれる美しい海岸線をはじめとする豊かな海洋性景観を有し、また、くにうみ神話の島として、古い歴史とすばらしい伝統文化を有する島です。

兵庫県では、「緑あふれる道づくり」として、淡路島の西海岸を縦貫する淡路サンセットライン（県道31号線〔主要地方道福良江井岩屋線〕）において、地域の歴史、文化的遺産や自然環境を生かした、拠点緑化や沿道緑化を重点的に推進しています。

大川公園は、弥生時代から奈良時代にかけて塩づくりが行われていた「貴船（きふね）神社遺跡」が存在することから、当時の「製塩風景」をモニュメントとし、また、万葉集で知られ、塩づくりを行ったとされる「野島海人（のじまあま）」像及び、旧町（北淡町）の木「サクラ」をシンボル樹とする「緑の道しるべ」として整備しました。

弥生時代後期　津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.

1. 淡路島の西北部　野島海人の郷　野島海岸
弥生後期の製塩工房跡　貴船神社遺跡を訪ねる　淡路市 野島大川

津名丘陵の山裾が海岸部にまで伸びる道筋　2018.8.29.　野島江崎で　9:12
10分ほどで灯台のモニュメントのある野島江崎の里　其の南に見える岬を回り込めば、
野島海人像がある野島大川である。
点々と「野島」の名前のつく集落がつづく。古代　野島海人の郷である

淡路島北西部　津名丘陵沿いの海岸には
「野島」の名を冠した集落が点々と続く

航海術にたけた古代淡路島の海人
野島海人の郷　「野島」

至神戸・大阪
淡路市
江崎
305
平林
野島
森木
谷山
常盤
東浦IC
中持
小倉
舟木
富島
長島
石田
水越
浅野
仁井
岩屋
田之代
鵜崎
長浜
松帆
鄭場山
浦本
福本
浦

野島海人像

淡路島北部 津名丘陵
海人族と関係が深い山間地集落群
▲ 弥生後期 津名丘陵地周辺に現れた生産工房
● 主要弥生遺跡分布
塩壺西遺跡
舟木遺跡（塩）
おぎわら遺跡
五斗長垣内遺跡（鉄）
大御遺跡
久野々遺跡（イイダコ
老ノ内遺跡
天神遺跡
横入遺跡
安乎岡所遺跡
石或ノ前遺跡（朱）
外ヶ島遺跡
大森谷遺跡
下内膳遺跡
荒山遺跡
波毛遺跡
東浦遺跡
主な弥生遺跡分布図（伊藤 2010）

津名丘陵沿いの淡路島北西部の
海岸「野島」は 野島海人の郷
野島江崎★
野島平林★
野島大川公園★
淡路島IC
野島菫浦★
★野島常盤
津名丘陵
野島断層★
★舟木遺跡
Google

2018.8.29.　9:17　瀬戸内海 播磨灘に面し　背後に貴船神社がある野島大川公園

手前の大川公園が弥生時代後期の生産工房跡　貴船神社遺跡
公園左部分に古代の塩作りが復元され、右部に野島海人の像が立つ

左側奥　内に広がる丘陵傾斜地が古代　航海術にたけた野島海人の里　野島大川
航海術にたけた野島海人は大陸・朝鮮半島と交易し　鉄鍛冶・製塩ほか先進技術を
畿内に持ち込み日本各地と交易　その生産工房の一つと見られている

野島の海人の製塩工房跡　貴船神社遺跡　野島大川公園

野島の浦に位置する古代の製塩遺跡。熱効率の良い石敷炉が発見され、大量生産した塩は王権にも供されたと考えられる。日本書紀に登場する「野嶋の海人」の活動拠点とされ、現在は海人が生業とした土器製塩の様子をモニュメントで見ることができる。

（淡路島日本遺産　貴船神社遺跡　http://kuniumi-awaji.jp/heritage/16kifune/　より）

2018.8.29.　9:17　野島大川公園　　弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元

野島大川公園前の砂浜から南側遠望
左手　海岸側まで　津名丘陵が迫り、右手　瀬戸内海 播磨灘に面した海岸線

2018.8.29.　9:17　瀬戸内海 播磨灘に面し 背後に貴船神社がある野島大川公園

貴船神社遺跡

ここ大川公園一帯は、弥生時代から古代にかけて塩づくりを行っていた貴船神社遺跡が存在していました。兵庫県では、はじめての石敷炉が確認された遺跡であり、塩づくりの課程が推測できる貴重な遺跡です。播磨灘に面した海岸部に立地しており、明石市から西播磨の海岸はもとより瀬戸内海に浮かぶ家島諸島・小豆島や四国まで遠望できます。塩づくりの遺跡は弥生時代末から奈良時代にかけて長期間にわたって継続しています。

塩づくりには、濃縮した海水を作る行　とその塩水を煮詰めて塩を取り出す２つの工程があります。そのはじめの工程には「万葉集」に見られる「藻塩焼き」をあてる考えがありますが、今回は明らかにできませんでした。調査で明らかになったのは塩を取り出す工程です。濃縮した塩水を製塩土器に入れ、石敷きの炉に並べて煮詰め塩を取り出す作業を行っており、炉跡が22基以上確認されています。そのうちの19基は古墳時代末から奈良時代で、大阪湾沿岸では塩づくりが衰退する時期にあたります。

また、塩づくりに携わった古代人は万葉集や日本書紀にみられる野島海人と考えられます。貴船神社遺跡で最も盛んに塩づくりをした時期が野島海人の活躍したことと関係あるかもしれません。

石敷炉

調査風景

製塩土器

塩づくり復元想像図

遺跡航空写真

タコ壷

新羅陶器

出土遺物は多量の製塩土器の他に須恵器・土師器・弥生土器・新羅陶器・黒色土器・石器・鉄器・銅製帯金具があります。最も古い時期の遺物は弥生時代中期末（約1800年前）の壷があります。製塩土器は、弥生時代末から出土しています。これから遺跡が廃絶する奈良時代まで製塩土器が含まれています。製塩土器が多いのは古墳時代末から奈良時代で、この時期が貴船神社遺跡の塩づくりの中心と思われます。

野島海人が使ったと思われる遺物に鉄製釣針・タコ壷・船形土製品があります。海との繋がりを示すものとして興味深い資料です。その他注目される遺物として新羅陶器があります。朝鮮半島から遠く運ばれてきた土器で、野島海人と海との関係の深さを示すものです。把手にヘラで描かれた顔が大変ユーモラスです。

北淡町教育委員会

写真資料提供　兵庫県教育委員会

貴船神社遺跡

ここ大川公園一帯は、弥生時代から古代にかけて塩づくりを行っていた貴船神社遺跡が存在していました。兵庫県では、はじめての石敷炉が確認された遺跡であり、塩づくりの課程が推測できる貴重な遺跡です。播磨灘に面した海岸部に立地しており、明石市から西播磨の海岸はもとより瀬戸内海に浮かぶ家島諸島・小豆島や四国まで遠望できます。塩づくりの遺跡は弥生時代末から奈良時代にかけて長期間にわたって継続しています。

塩づくりには、濃縮した海水を作る行　とその塩水を煮詰めて塩を取り出す２つの工程があります。そのはじめの工程には「万葉集」に見られる「藻塩焼き」をあてる考えがありますが、今回は明らかにできませんでした。調査で明らかになったのは塩を取り出す工程です。濃縮した塩水を製塩土器に入れ、石敷きの炉に並べて煮詰め塩を取り出す作業を行っており、炉跡が22基以上確認されています。そのうちの19基は古墳時代末から奈良時代で、大阪湾沿岸では塩づくりが衰退する時期にあたります。

また、塩づくりに携わった古代人は万葉集や日本書紀にみられる野島海人と考えられます。貴船神社遺跡で最も盛んに塩づくりをした時期が野島海人の活躍したことと関係あるかもしれません。

塩づくり復元想像図

遺跡航空写真

石敷炉

調査風景

製塩土器

タコ壺

新羅陶器

出土遺物は多量の製塩土器の他に須恵器・土師器・弥生土器・新羅陶器・黒色土器・石器・鉄器・銅製帯金具があります。最も古い時期の遺物は弥生時代中期末（約1800年前）の壺があります。製塩土器は、弥生時代末から出土しています。これから遺跡が廃絶する奈良時代まで製塩土器が含まれています。製塩土器が多いのは古墳時代末から奈良時代で、この時期が貴船神社遺跡の塩づくりの中心と思われます。

野島海人が使ったと思われる遺物に鉄製釣針・タコ壺・船形土製品があります。海との繋がりを示すものとして興味深い資料です。その他注目される遺物として新羅陶器があります。朝鮮半島から遠く運ばれてきた土器で、野島海人と海との関係の深さを示すものです。把手にヘラで描かれた顔が大変ユーモラスです。

北淡町教育委員会

写真資料提供　兵庫県教育委員会

古代の塩づくり
1.海草を集め、天日で干す。
2.濃い塩水をつくる。
3.濃い塩水を煮つめる。
4.製塩土器から、塩をとりだす。

2018.8.29.　野島大川公園　弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元

熱効率が良く大量生産ができる石式炉が
野島の海人たちによって、持ち込まれたと言う

2018.8.29.　野島大川公園　弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元

2018.8.29.　野島大川公園　弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元
熱効率が良く大量生産ができる新しい技術　石式炉が、野島の海人たちによつて、
持ち込まれたと言われる

新しい技術　石式炉が出土

野島海人の郷　野島海岸　野島大川　　2018.8.29.
野島大川公園前の砂浜から南側を遠望

野島海人の像が立つ野島大川公園　2018.8.29.　9:17
弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元されている

2018.8.29.　9:17　野島大川公園
手前の大川公園が弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元
右部に野島海人の像が立つ

2018.8.29. 野島大川公園　の背後の丘陵地に風力発電の風車が建つ

2018.8.29. 古代野島の海人の郷　野島大川公園前の海岸線

2018.8.29.　古代野島の海人の郷　野島大川公園前の海岸線

2018.8.29.　古代野島の海人の郷　野島大川公園前の海岸線

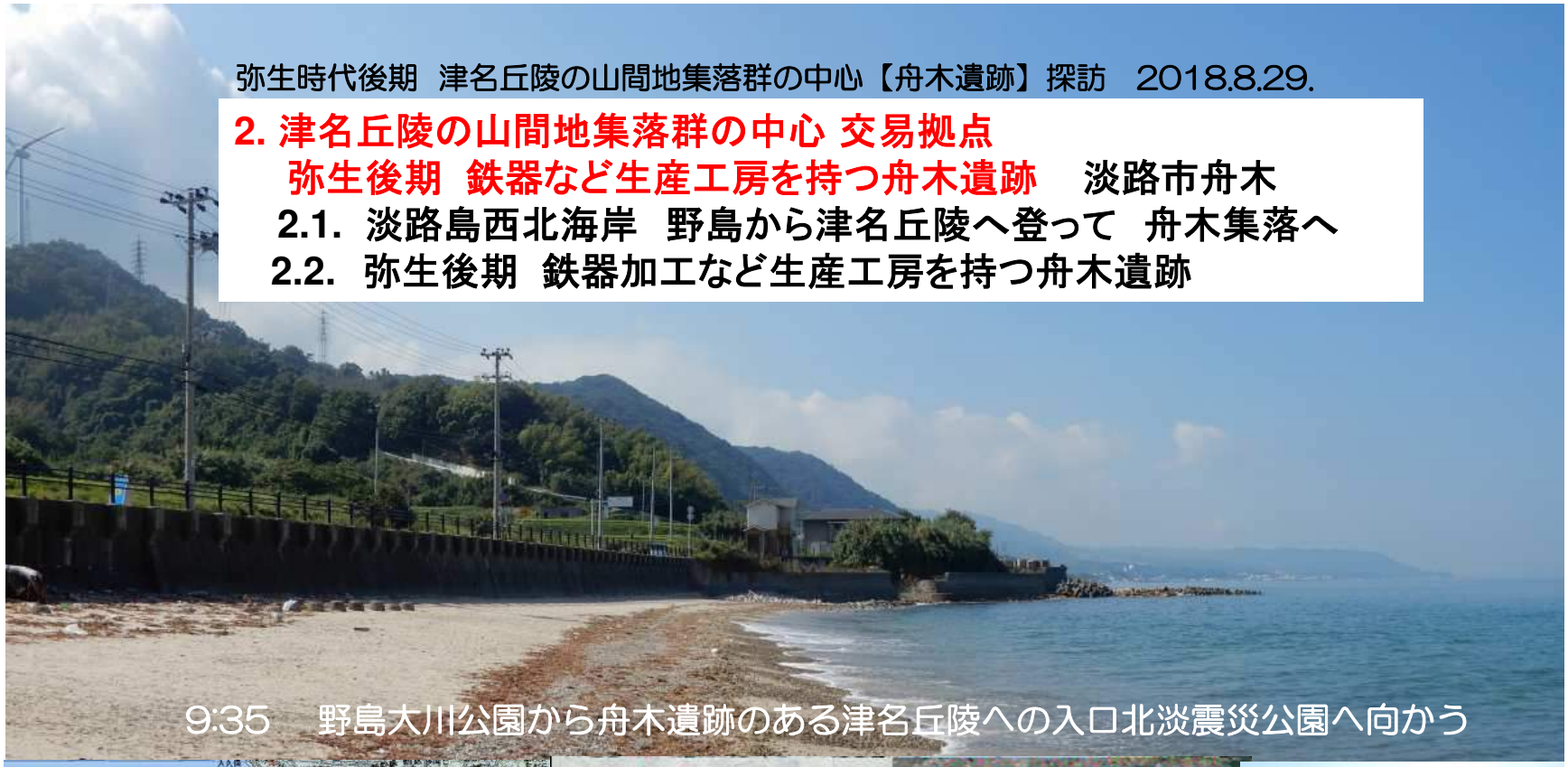
弥生時代後期　津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.

2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点

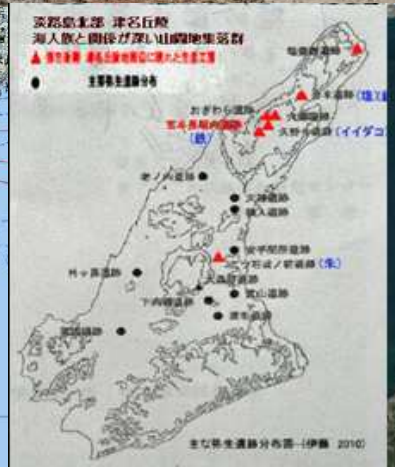
弥生後期　鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡　　淡路市舟木

2.1.　淡路島西北海岸　野島から津名丘陵へ登って　舟木集落へ

2.2.　弥生後期　鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡

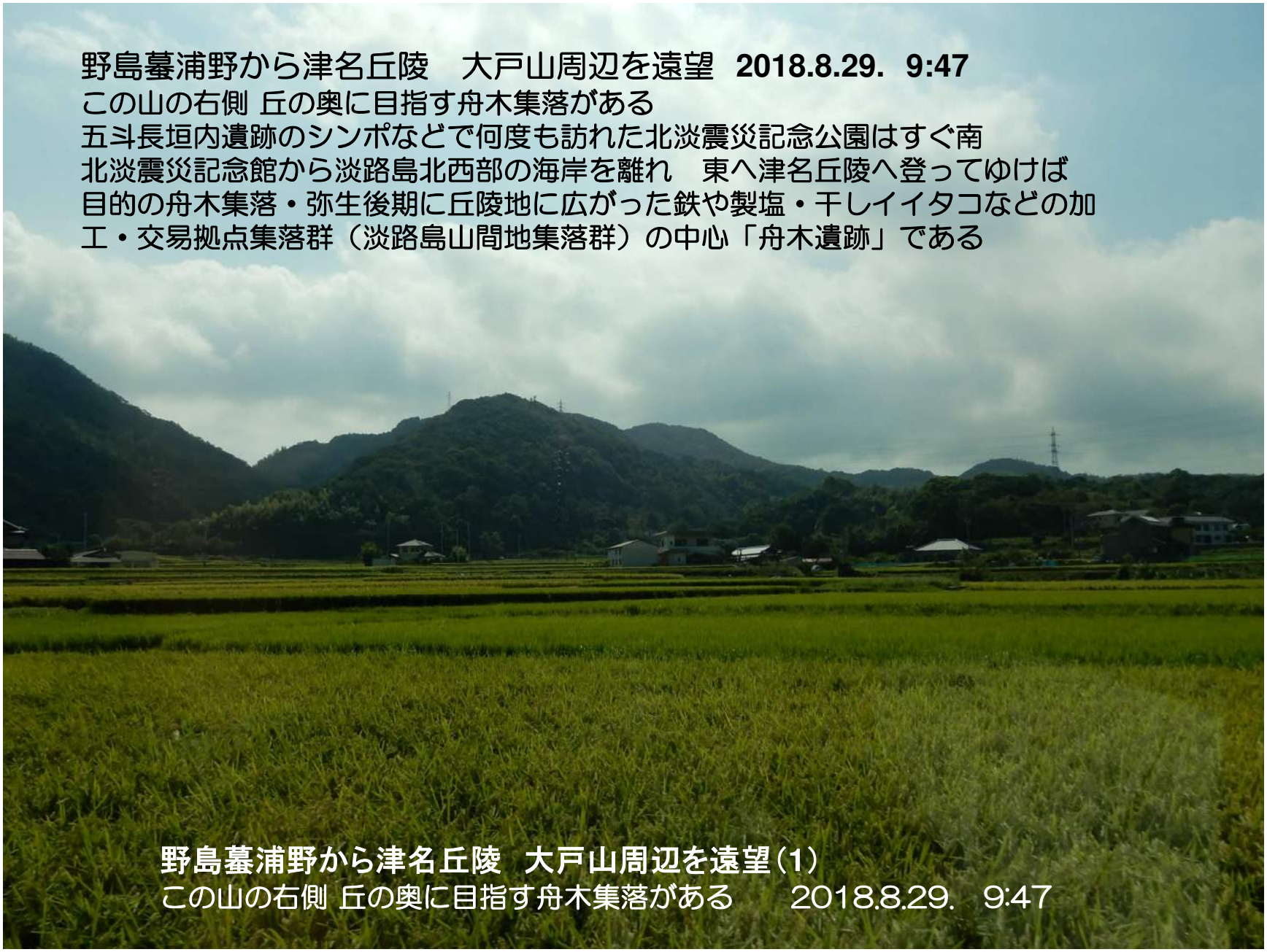


9:35　野島大川公園から舟木遺跡のある津名丘陵への入口北淡震災公園へ向かう



2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点
弥生後期　鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡

2.1. 淡路島西北海岸　野島から津名丘陵へ登って　舟木集落へ


野島蟇浦野から津名丘陵　大戸山周辺を遠望　2018.8.29.　9:47
この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある
五斗長垣内遺跡のシンポなどで何度も訪れた北淡震災記念公園はすぐ南
北淡震災記念館から淡路島北西部の海岸を離れ　東へ津名丘陵へ登ってゆけば
目的の舟木集落・弥生後期に丘陵地に広がった鉄や製塩・干しイイタコなどの加
工・交易拠点集落群（淡路島山間地集落群）の中心「舟木遺跡」である
野島蟇浦野から津名丘陵　大戸山周辺を遠望（1）
この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある　　2018.8.29.　9:47

野島蟇浦野から津名丘陵　大戸山周辺を遠望（2）
この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある　　2018.8.29.　9:47

北淡サンビーチ横　地図を再度確認する
震災記念館近く、カーナビは北淡路記念館の横を通過し、
旧北淡町富島漁港から東へ折れて　県道を丘陵地を登り、
舟木集落へ入る　コースを示している。
でも調べた地図では　野島断層・震災記念館から東へ折れて、
まっすぐ丘陵地へ登れば舟木集落であるはず。

少しゆくと左手に北淡震災記念館の標識がある三叉路。
この道に入れば、東へ道なりに丘陵地を登れば舟木集落へ行けそうであるが、
でも　丘陵地の上は細い生活道路ばかりで、道の状態はよくわからない。

南の津名丘陵の上にある五斗長垣内遺跡へ当初出かけた時に
道が細い生活道路のみで迷った経験があるので気になっている。

弥生時代後期　山間地集落群の中心
舟木遺跡への道　概略

国土地理院の地図で一応舟木遺跡までの道は調べ、北淡震災記念館からまっすぐ東へ津名丘陵を登れば、舟木集落まで行けそう。
でも車のナビは県道を通って、津名丘陵を登って、南から舟木集落にゆくことをリコメンドする。
丘陵の上で車が動けなくなるのも嫌なので
舟木集落周辺の津名丘陵を眺めに少し登り、丘陵地の様子を見て引き返し、ナビの通り県道を進み、南側から舟木集落に入ることにする。

海岸線を離れ東へ　北淡震災記念館の標識がある三叉路を東へ入る　2018.8.29.　9:48

すぐに北淡記念館の標識が見えるが、津名丘陵の山並み　舟木集落周辺部の状況が知りたくて、
そのまま東へ丘陵地を登ってゆく。

北淡震災記念館の東へ入ると淡路島北部中央を南北に伸びる津名丘陵　2018.8.29.
丘陵を一段上へ上がった丘陵の上が正面に　長畠の集落か？ 丘の上にも集落が見える
舟木の集落はもっと左手の丘の上である。　また道の左側は丘陵地の斜面に沿う崖

北淡震災記念館の東へ入ると淡路島北部中央を南北に伸びる津名丘陵　2018.8.29.
道は左へループして丘陵地をの登って、舟木集落周辺の丘が見えてくる

野島断層・震災記念館の東　津名丘陵の中腹の十字路　　丘陵地の正面上が舟木集落のようだ

交差する道に沿って　入り組んだ谷筋が広がる入り組んだ地形。でもこのまま行けんこともない
ナビはやっぱり県道をゆくことを進める。
なんと言っても野島断層が走る丘陵地帯　無理せずに戻って、県道を舟木集落へゆくことに。

震災記念公園の東　津名丘陵中腹の十字路から眺める 舟木集落周辺　2018.8.29.

津名丘陵の中腹から見下ろす野島震災記念公園周辺の海岸部　　2018.8.29.
眼下には丘陵地の斜面を使った太陽光パネルがいくつも設置され、
震災記念公園から登ってきた道や海岸部が見え、随分登ったことがわかる

震災記念公園の東　津名丘陵へ登る道　　2018.8.29.

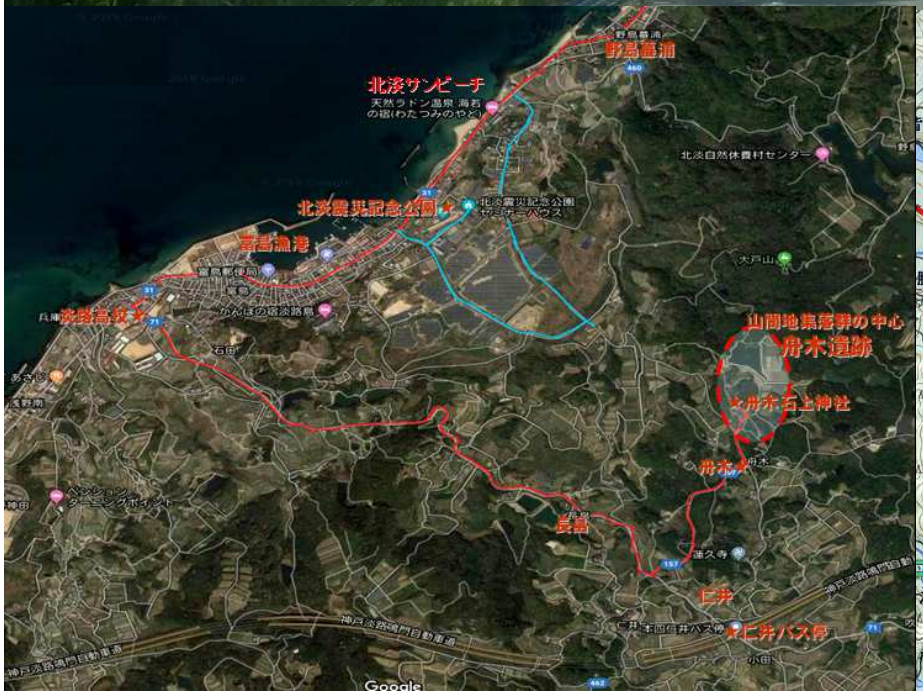
北淡震災記念館駐車場から眺める津名丘陵　舟木集落周辺遠望（1）　2018.8.29.

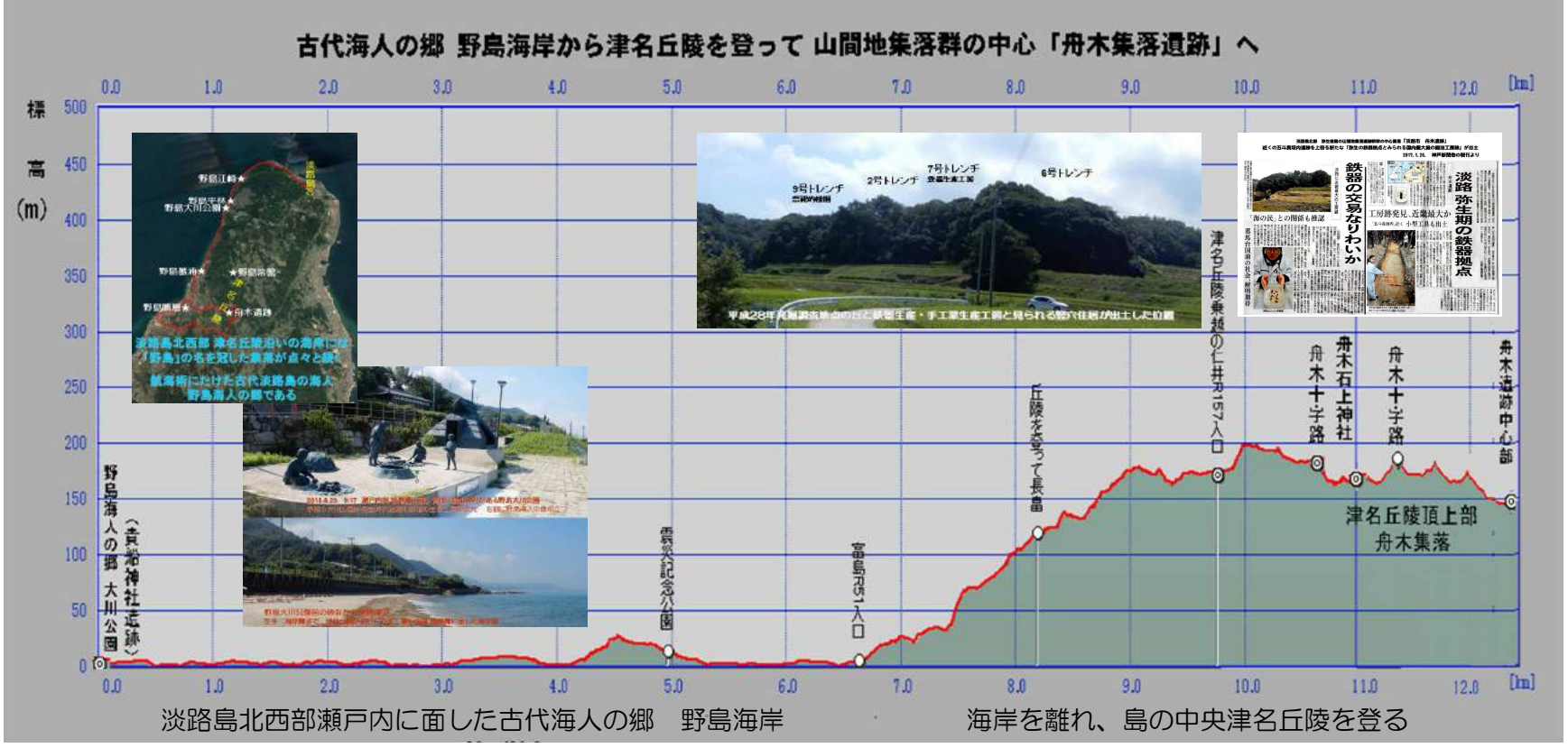
北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵　舟木集落周辺遠望（2）　2018.8.29.

北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵　南東側　舟木集落から仁井周辺遠望

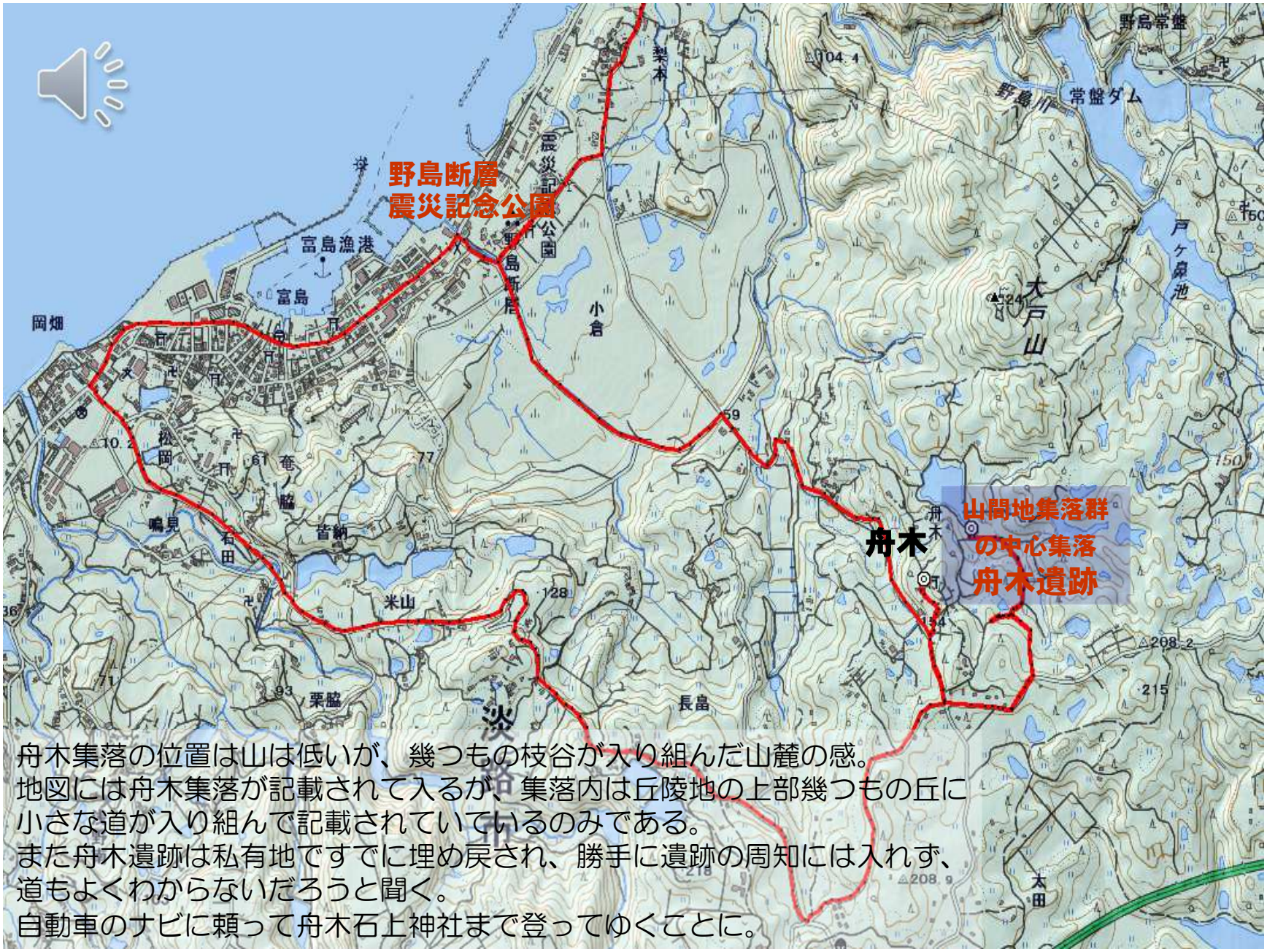
北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵　南西側　　富島 周辺
震災公園内には台風20号で倒れたシンボルの大型風力発電風車の残骸が見える

車のナビ通り、南の富島から東へ県道71号に入り、津名丘陵の山腹を斜めに登り、を通って、
津名丘陵を登って、長畠の集落から丘陵の最上部　仁井の集落から北へ丘陵の最上部を
北に走る県道157号を舟木集落にゆく　　9:55





淡路島北西部瀬戸内に面した古代海人の郷　野島海岸　　海岸を離れ、島の中央津名丘陵を登る



舟木集落の位置は山は低いが、幾つもの枝谷が入り組んだ山麓の感。
地図には舟木集落が記載されて入るが、集落内は丘陵地の上部幾つもの丘に
小さな道が入り組んで記載されていているのみである。
また舟木遺跡は私有地ですでに埋め戻され、勝手に遺跡の周知には入れず、
道もよくわからないだろうと聞く。
自動車のナビに頼って舟木石上神社まで登ってゆくことに。

海岸沿いの富島の街から東へ　島の中央　津名丘陵を乗越して
東西の海岸線つなぐ県道71号線に入る

津名丘陵を東へ超える県道71号　長畠集落から眺める北側　2018.8.29.　10:04
先程 震災記念公園から東へ入った谷筋が下に見えている

県道71号　長畠集落から眺める津名丘陵の山腹に広がる棚田　2018.8.29.　10:04

県道71号　長畠集落から眺める津名丘陵の山腹に広がる棚田　2018.8.29.10:04

西から東へ　津名丘陵の乗越しにある仁井集落標識　2018.8.29.【1】10:08
県道71号は津名丘陵を乗越して、東海岸へ
舟木集落へはすぐ先の十字路を北へ津名丘陵の上を進む県道157号に入る

西から東へ　津名丘陵の乗越しにある仁井集落標識　2018.8.29.【2】
県道71号は津名丘陵を乗越して、東海岸へ
舟木集落へはすぐ先の十字路を北へ津名丘陵の上を進む県道157号に入る

仁井集落から津名丘陵の上を北に走るやっと車がすれ違える狭い県道157号
集落のない樹林の中曲がりくねった道を行く

県道157　舟木集落入口　西の富島・野島断層から登ってきた道との十字路　2018.8.29.

仁井の集落で教えてもらった十字路を左手　北に曲がれば舟木の集落
あとで理解したのですが、先に津名丘陵を途中まで登ってきた道がこの道だった

Google Earth より

県道157号線十字路から南へ舟木集落へは急な坂道を下る

竹林の広がる丘を南に抜けるとぱっと視界がひらけ、
津名丘陵　丘陵地の丘の上　舟木集落に到着

津名丘陵の上にある舟木集落　到着　　google earth

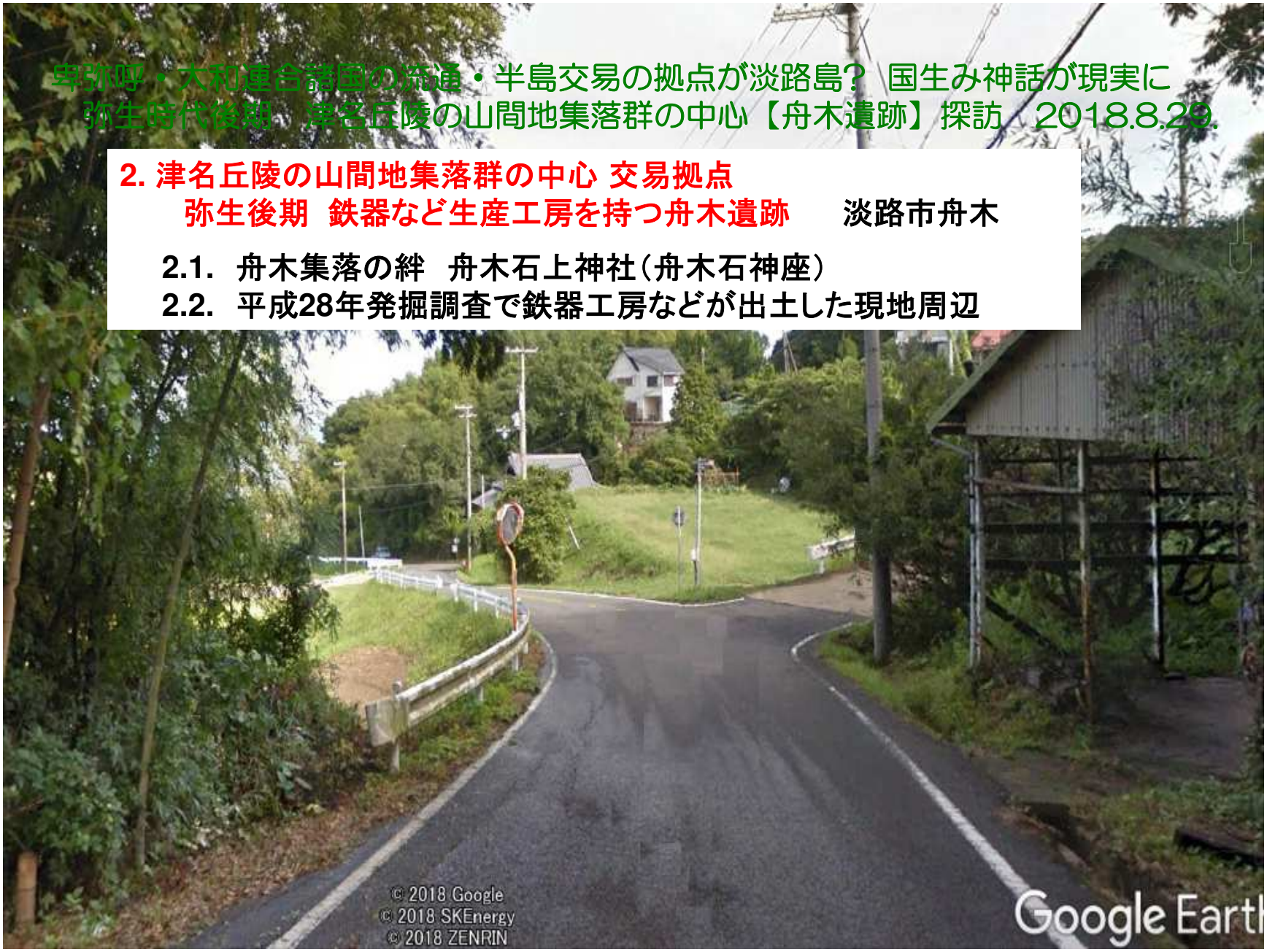
舟木集落　舟木石上神社前　【1】　2018.8.29.
車のナビはここで終了　　右へコンクリートの坂道への登り口に見落としそうな
「石上神社」と小さな標識。車一台が通れる坂道　このすぐ上が舟木石神神社だった

舟木集落　舟木石上神社前　【1】　石上神社の案内標識　　2018.8.29.　10:11
右へコンクリートの坂道への登り口に見落としそうな「石上神社」と小さな標識。
車一台が通れる坂道　このすぐ上が舟木石神神社だった

卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に
弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

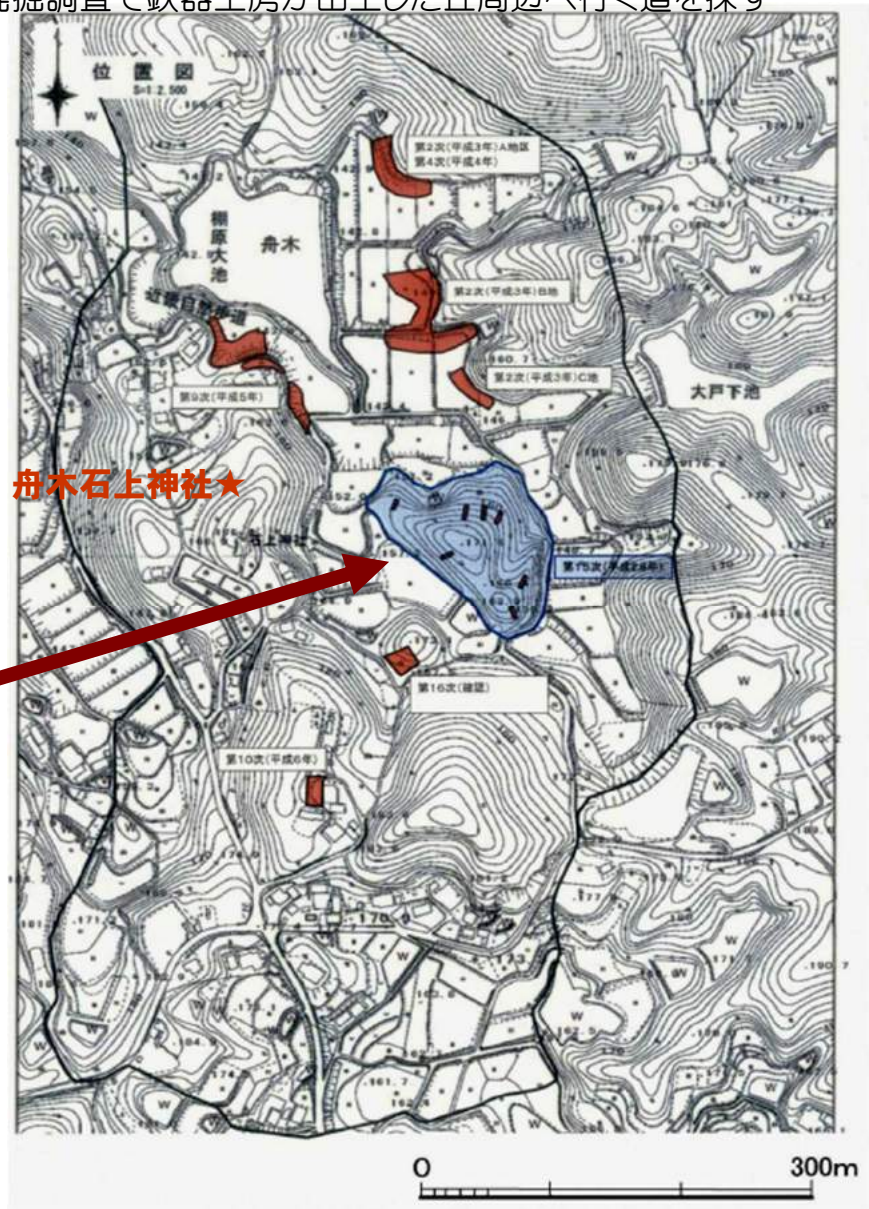
2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点
弥生後期 鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木

2.1. 舟木集落の絆 舟木石上神社（舟木石神座）
2.2. 平成28年発掘調査で鉄器工房などが出土した現地周辺



舟木遺跡の位置と遺跡エリア　現在はすべて埋めもどされ、遺構は見られないが、

舟木集落の拠り所　舟木石神神社へ行き、平成28年度発掘調査で鉄器工房が出土した丘周辺へ行く道を探す



舟木集落　舟木石上神社（舟木石上座）の鳥居前　【1】　2018.8.29. 10:13
小さな鳥居の前に「女人禁制」の石標と石上神社の概説案内板があり、
家内を残して、この奥神域の森の中に入ると大きな磐座　石上座が祀られていました

舟木集落　舟木石上神社（舟木石上座）の鳥居前　【2】
小さな鳥居の前に「女人禁制」の石標と石上神社の概説案内板があり、
家内を残して、この奥神域の森の中に入ると大きな磐座が祀られていました

舟木石神座と女人禁制

★日の神の信仰

北緯三四度三二分の線上　伊勢、神島、堀崎山、倶留尊（三重県）↓室生寺、長谷寺、三輪山、二上山（奈良県）↓日置荘、大鳥神社（大阪府）↓伊勢久留麻神社、当石神座（淡路島）の各地で古くから日の神信仰していたことが明らかになった

（昭和五十五年二月ＮＨＫテレビ放映）

★祭

もともと日の神は、太陽神の本体として天照皇大神と大日如来が想定され所によってそのどちらかを祭っている地もあり、両者を合祭している所もあるこの石神座は両者を勧請して祭ったものである。

★日を迎える座と日を追う座

これら太陽を信仰する地に「日を迎える座」（朝日に向かって祭事を行う）と「日を追う座」（夕日に向かって祭事を行う）とがある　そのうち前者は男性が祭事をつかさどり後者は女性が祭事をつかさどってきたしたがって女人禁制はここからきたものである現在この制度がくずれているなかで当地は今なお里人の間で固く守られ、民族学上からも貴重な存在である。

今なお残る「女人禁制」の舟木石上神社（古代の祭祀場　舟木石神座）
春分&秋分の日に太陽が通る「太陽の道」の「日の神信仰」一番西の端にある磐座
林に包まれた磐座の後側には幾つも巨石・石組があり、
2000年を経る今も守り継がれている祭祀場である

この舟木石神座は弥生時代後期の舟木遺跡域の一部で、標高約150メートルに位置し、
約40ヘクタールに及ぶ舟木遺跡の中央部伊勢の森とも呼ばれる地。その巨石祭祀跡として
位置づけられ、 2000年以上続く現役の祭祀場で、祭祀は今も厳粛に続けられていい、
この地は弥生時代から続く交通の要衝でもあり、重要集落であったろう。

「ライン北緯34度32分の線 春分&秋分の日に太陽が通る太陽の道」
奈良県の箸墓古墳を中心に東の端がアマテラス大神を祀る伊勢となり海上の島、神島へ
箸墓古墳からほぼ同じ距離を西の端へ進むと 淡路島 伊勢の森の伊勢久留麻神社があり、
その西の峠を越えたところに舟木石神座がある。
「太陽を信仰する地には、「日を迎える座」と「日を追う座」があるといい、
それぞれ朝日に向かって、夕日に向かって祭事を行う。
前者は男性が、後者は女性が祭事を司るとされ、
この舟木石神座は前者にあたり、長らく女人禁制が守られてきた」という。

舟木神社磐座　舟木石上座

舟木神社磐座　舟木石上座
この周辺からも弥生時代の遺物が出土　今に至るまで　舟木の集落が守ってきた磐座
この磐座後ろ側には　磐座を取り囲んで、巨石や組石が幾つも有り、祭祀の場であった

この巨石の下に、
石棒状岩石が2つ
挟まり空洞を形成
している。
列石状
岩石群
押石
祠
稲荷
社
立石
石垣
特に
鬱蒼とした森
女人禁制
の石標
説明板
八丁岩
方面？

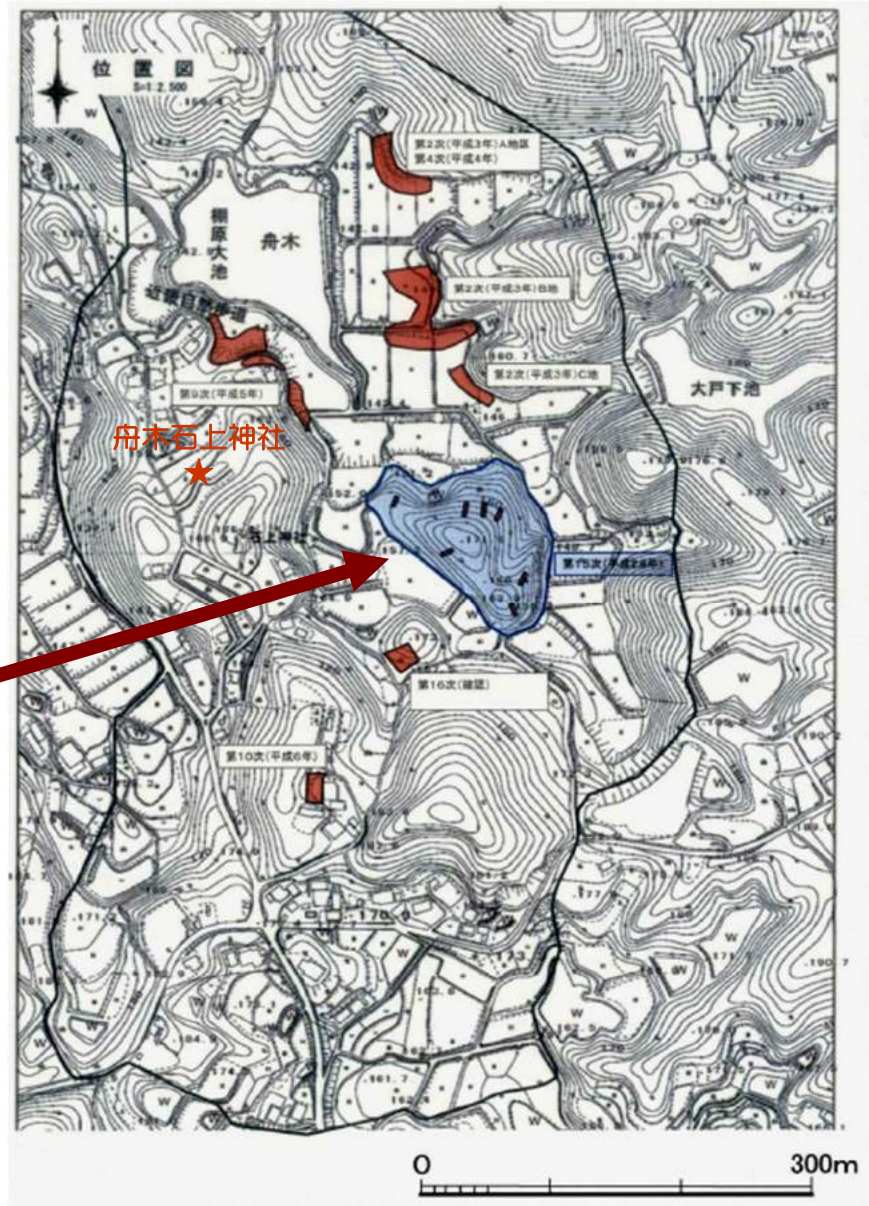
林に包まれた磐座の後側に回り込むと　幾つも巨石・石組があり　、2000年を経る今も守り継がれている祭祀の場

舟木神社　舟木石上座　【2】

女人禁制で　女性は磐座の神域には入れませんが、下の谷筋から巡ると
磐座を拝せるようになっていました。
舟木石上神社　神域に入れぬ女性のための丘の下から舟木石上座を拝する道【1】

舟木石上神社　神域に入れぬ女性のための丘の下から舟木石上座を拝する道【2】

舟木遺跡の位置と遺跡エリア　現在はすべて埋めもどされ、遺構は見られないが、平成28年度発掘調査で鍛冶工房が出土した丘周辺へ行く道を探す



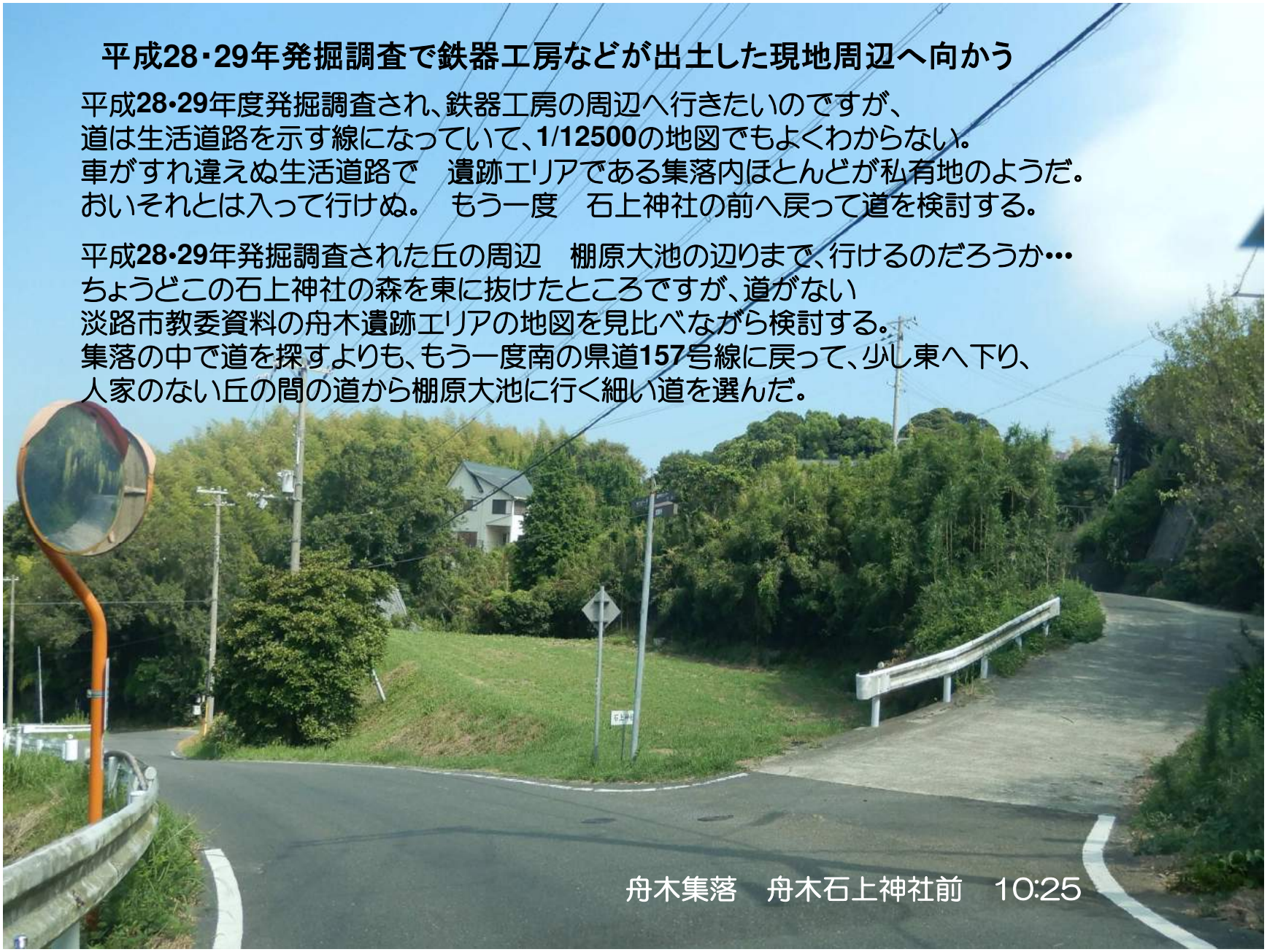
この石上神社の神域も、弥生後期の舟木集落遺跡域にあり、
この周辺から大型の器台形土器などが発見されていると聞く。

舟木への道と聞き、舟木石上神社へ行くというと「舟木石上神社の磐座は女人禁制　神社の中へは入れないが、下の道からも、磐座は眺められる」と聞いてびっくりもしましたが、パワースポットとの表現もあるが、森の中　ひっそり静かに座す磐座には　歴史の重さを感じました。
海岸からは一番奥の山の集落　都市化が進む中　弥生時代から変わることなく
この磐座を中心に集落が維持され、今に続いている。
舟木遺跡の広いエリアの殆どが、私有地であることも　その表れかと。

平成28･29年発掘調査で鉄器工房などが出土した現地周辺へ向かう

平成28･29年度発掘調査され、鉄器工房の周辺へ行きたいのですが、
道は生活道路を示す線になっていて、1/12500の地図でもよくわからない。
車がすれ違えぬ生活道路で　遺跡エリアである集落内ほとんどが私有地のようだ。
おいそれとは入って行けぬ。　もう一度　石上神社の前へ戻って道を検討する。

平成28･29年発掘調査された丘の周辺　棚原大池の辺りまで、行けるのだろうか･･･
ちょうどこの石上神社の森を東に抜けたところですが、道がない
淡路市教委資料の舟木遺跡エリアの地図を見比べながら検討する。
集落の中で道を探すよりも、もう一度南の県道157号線に戻って、少し東へ下り、
人家のない丘の間の道から棚原大池に行く細い道を選んだ。



舟木集落　舟木石上神社前　10:25

棚原大池
舟木
★近畿自然歩道標識
舟木神社
平成28・29年度
発掘調査
154
県道157

八阪神社
棚原大池
★近畿自然歩道標識
平成28・29年度
発掘調査
舟木石上神社
(舟木石神座)
舟木
157

県道157号線舟木の十字路に戻り、舟木集落の丘に沿って東へ
棚原大池や平成28年発掘調査地の丘へ回り込める東の入口へ向かう

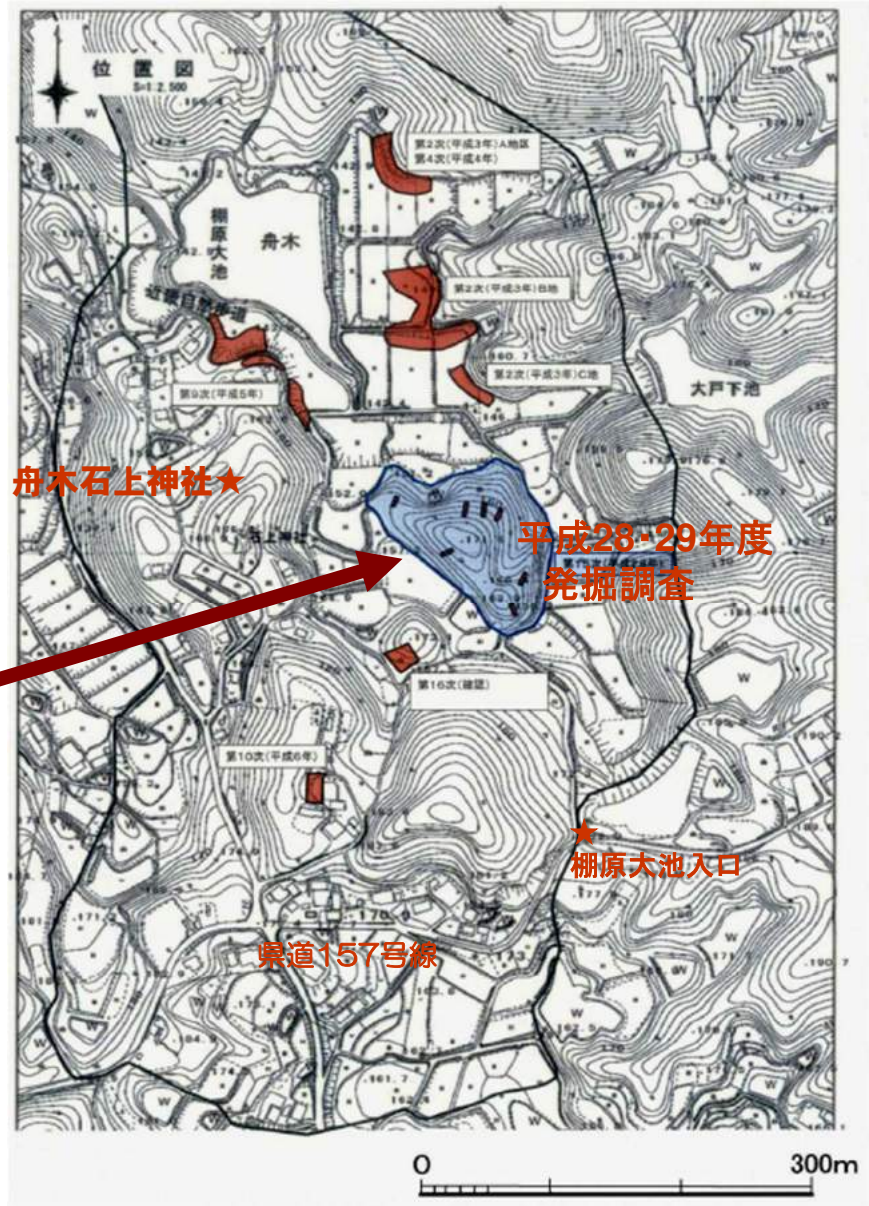
地図によれば　県道を舟木集落の丘に沿って
東へ坂道を回り込んだあと、右へ曲がる角の細い道とが入口でした

県道157号線 棚原大池や平成28年発掘調査地の丘へ回り込める東の入口 10:32
地図を見ていな
見落としてしまう 車一台が通れる細い農道?が奥へ伸びている

棚原大池
舟木
★近畿自然歩道標識
舟木神社
平成28・29年度
発掘調査
154
棚原大池入口
県道157

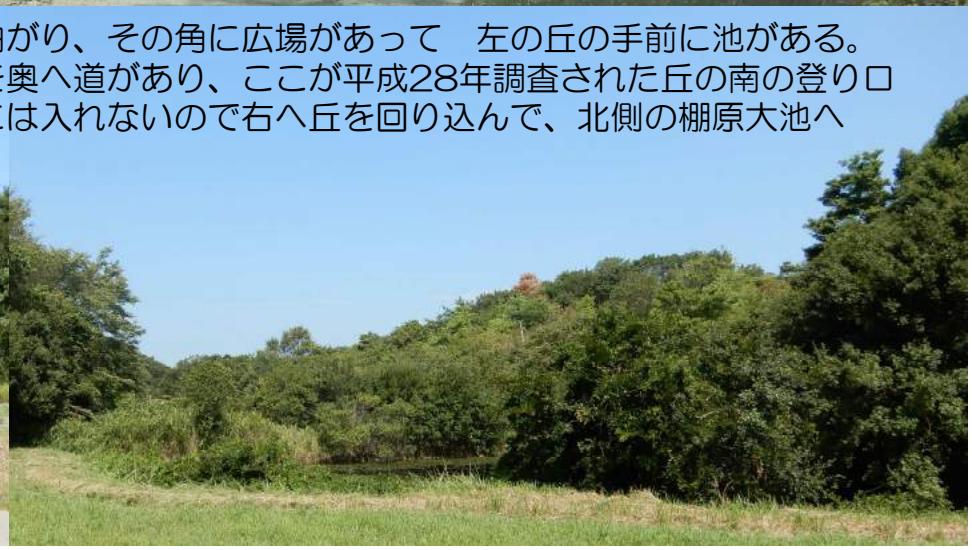
八阪神社
棚原大池
★近畿自然歩道標識
平成28・29年度
発掘調査
舟木石上神社
(舟木石神座)
棚原大池入口
舟木
157

舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア



丘の間を抜けると　舟木遺跡エリア内の圃場整備された丘陵地の田園に　南の県道側を眺める　10:35

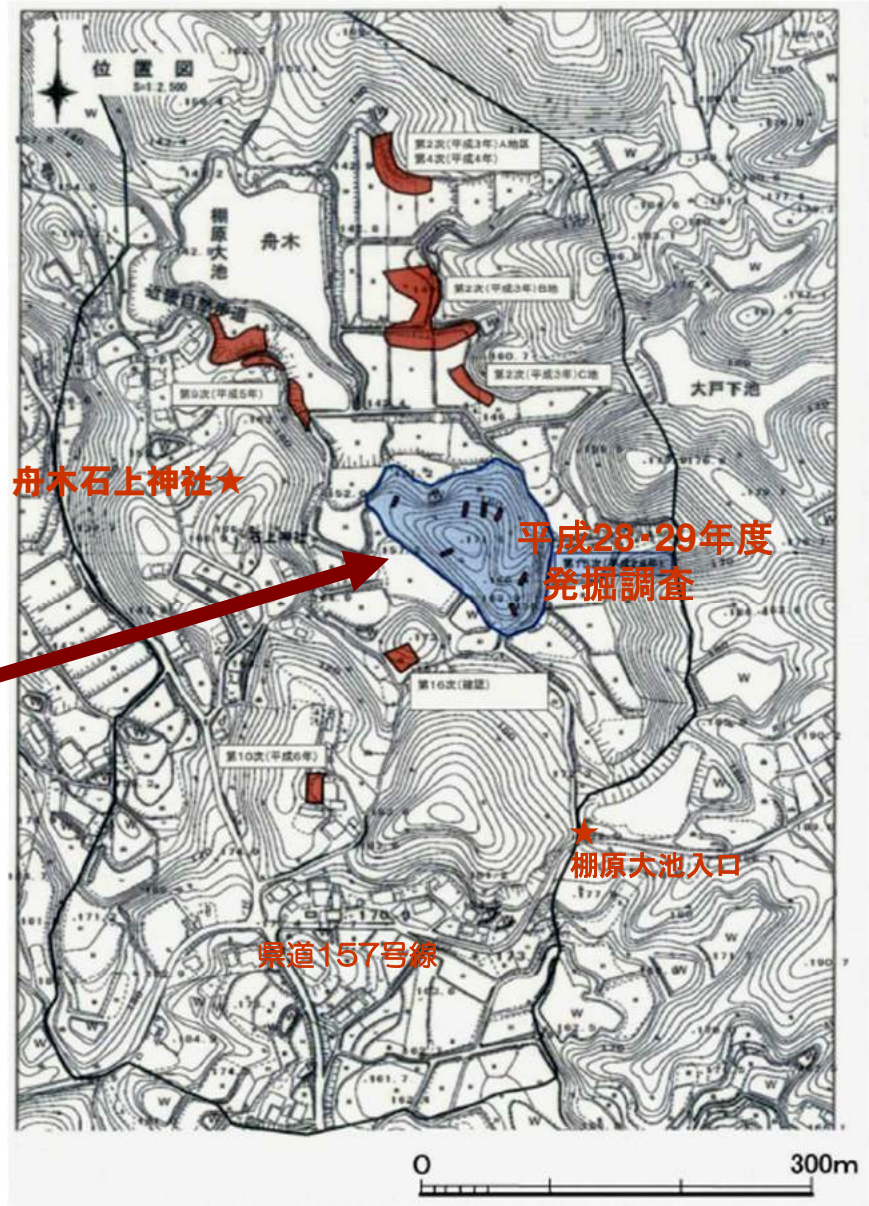
この地点北側では　道が右に折れ曲がり、その角に広場があって　左の丘の手前に池がある。
左へ農道があり、中央から池の縁を奥へ道があり、ここが平成28年調査された丘の南の登り口のようだ。　私有地なの発掘地点には入れないので右へ丘を回り込んで、北側の棚原大池へ



南側の丘の間をくぐり抜けると　視界がひらけ、ぐるりと周囲を幾つもの丘に囲まれ、
圃場整備された舟木集落の田園　棚原大池を中心とした舟木遺跡エリアの中央部【1】10:50

南に今通り抜けてきた平成28年発掘調査域の丘と背後に舟木の集落
東の中央から北に棚原大池が広がり、　其の南端に近畿自然歩道の案内標識が見える

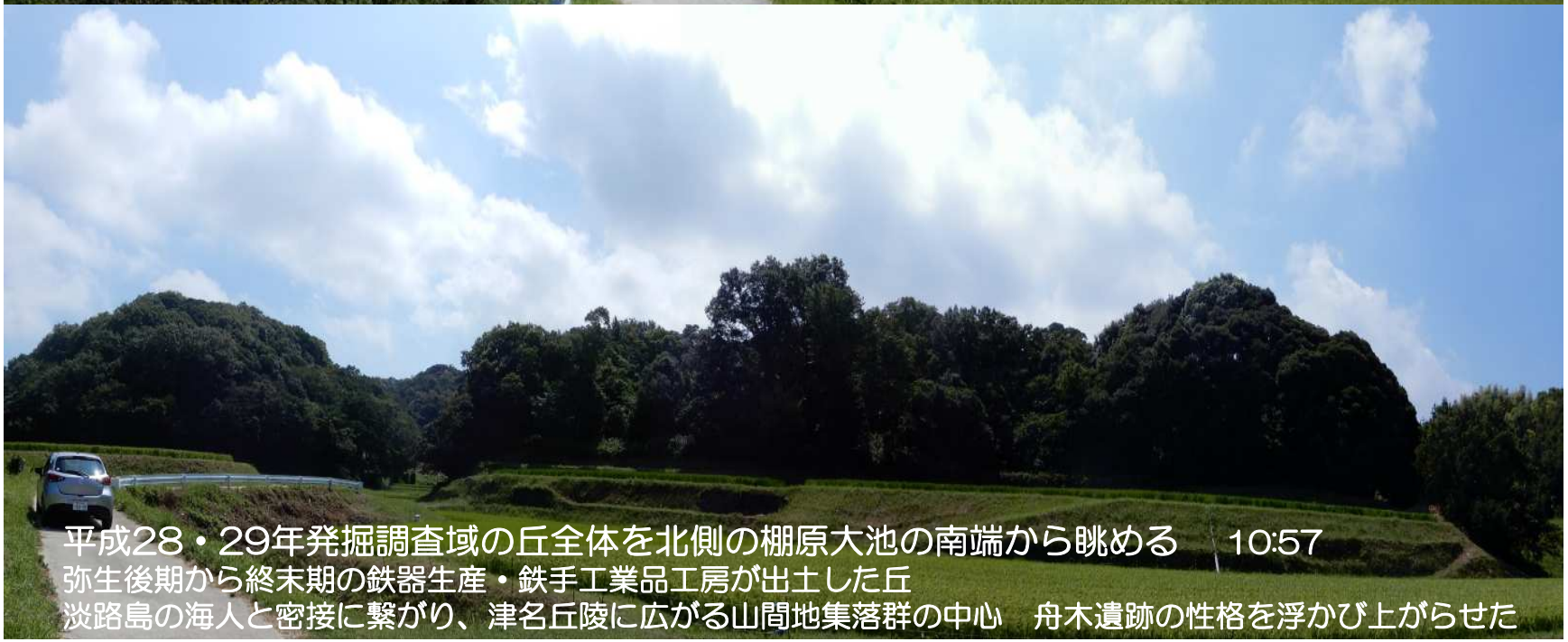
舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア



丘の間をくぐり抜けるとぐるりと周囲を幾つもの丘に囲まれ、
良く圃場整備された舟木集落の田園　棚原大池を中心とした舟木遺跡エリアの中央部【2】

東の中央から北側に棚原大池が広がり、其の南端に近畿自然歩道の案内標識が見える

南側　通り抜けてきた平成28・29年発掘調査域の丘
弥生後期から終末期の鉄器生産・鉄手工業品工房が出土した丘



平成28・29年発掘調査域の丘全体を北側の棚原大池の南端から眺める　10:57
弥生後期から終末期の鉄器生産・鉄手工業品工房が出土した丘
淡路島の海人と密接に繋がり、津名丘陵に広がる山間地集落群の中心　舟木遺跡の性格を浮かび上がらせた

淡路島北部　弥生後期の山間地集落遺跡群群の中心集落「淡路市　舟木遺跡」

近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土

2017. 1. 26.　神戸新聞他の朝刊より

淡路 弥生期の鉄器拠点

舟木遺跡

淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、新たに鉄器生産工房跡と、手工業品を生産した可能性のある工房跡、鉄器関連とみられる遺物が見つかった。兵庫県と同市の両教育委員会が26日発表した。過去に同市で見つかった近畿最大の鉄器生産遺跡「五斗長垣内遺跡」（同市黒谷）を上回る規模と推定され、専門家は「弥生時代、淡路島が鉄器の製作や保有の地として有力視されていたことを裏付ける発見だ」と指摘する。

（29面に関連記事）

舟木遺跡で見つかった小型鉄器

舟木遺跡　弥生時代後期～末期（1世紀～3世紀初頭）に存在したとみられる。1968年に発見された。調査は翌年から。91年の調査で見つかった出土物が、古代の中国で製作された青銅製の中国鏡の破片であることが明らかになっていた。

工房跡発見、近畿最大か

「五斗長垣内」近く　小型工具も出土

同時に出土した土器の年代から、工房があったのは2世紀後半とみられる。見つかった遺構は、柱が外側に寄り中央部が広いことから、作業をする空間だったと推定される。また4棟全てから鉄器製作に使ったとみられる石器を多数発見。鉄器は計31点あり、鍛冶関連の鉄滓（かす）や小型工具が出土した。

針状鉄器は小さいものでは長さ4センチ、幅1センチで、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「小型工具を使って何らかの手工業品を生産する大規模な工房群が存在した可能性がある」と指摘する。作られた物は出土していないが、木製品や皮革製品なども想定できるという。

2009年に工房12棟と鉄器1ケタ点が見つかった五斗長垣内遺跡では、鉄鏃（やじり）などの武器類が多く出土した一方、舟木では明確に武器と認められるものはなかった。二つの集落はわずか約6キロの距離でほぼ同時期に存在していたが、生産物に違いがあることが判明。五斗長垣内が戦いに備えた武器を舟木で調達していたことも分かった。

（31面に関連記事）

炉の跡が確認された工房の遺構。土が赤っぽく焼けている＝2009年、舟木（撮影・内田世紀）

鉄器の交易なりわいか

淡路に近畿最大の工房跡

「松帆銅鐸」（淡路市）や「五斗長垣内遺跡」（淡路市）など、弥生時代における重大な発見が相次ぐ淡路島。近畿最大規模の鉄器生産遺跡と推定される「舟木遺跡」（同）の調査が進めば、古代史でも謎が多い邪馬台国成立前の日本社会の状況や、島の果たした役割の解明につながると期待されている。

（1面参照）

舟木遺跡があるのは島西側の海岸から約2キロ離れた標高約150メートルの丘陵地。ふさは南北約800メートル、東西約500メートルで、東門家は「島でありながら海から隔絶された内陸に位置する特異な立地」と指摘する。弥生時代後期は、西日本全域で戦乱が起きていたとみられ、各地に山間地集落が急増。島北部にも約600カ所の集落が営まれ、広大な面積の同遺跡は中心的存在とみられていた。

同遺跡では、周辺で試掘をした形跡がないが、今回鉄器や手工業品の生産工房跡が見つかったことから、淡路市教育委員会の伊藤宏幸次長は「鉄器や手工業品の交易をなりわいとしていた可能性がある」とみる。

また、出土した土器などから、奈良県立橿原考古学研究所の森岡秀人・共同研究員（考古学）は「丘陵の頂上ワークがある人たちが欠かせない」と指摘。祭祀に関係する施設など重要な遺構が発見される可能性が高い」と期待を寄せる。

昨年、「日本遺産」に認定されたストーリーで焦点が当たった「海の民」の関与も推測される。当時の鉄の素材の供給地である朝鮮半島などに近い九州・山陰と比べると、瀬戸内は鉄素材を入手しにくい地域だ。伊藤次長は「素材を運ぶにしても、製品の情報を得るにしても、船を造った人・技術者などが、各地にネットワークがある人たちが欠かせない」と指摘。今回出土した鍛冶工具など重要な遺構が発見される可能性が高い」と期待を寄せる。

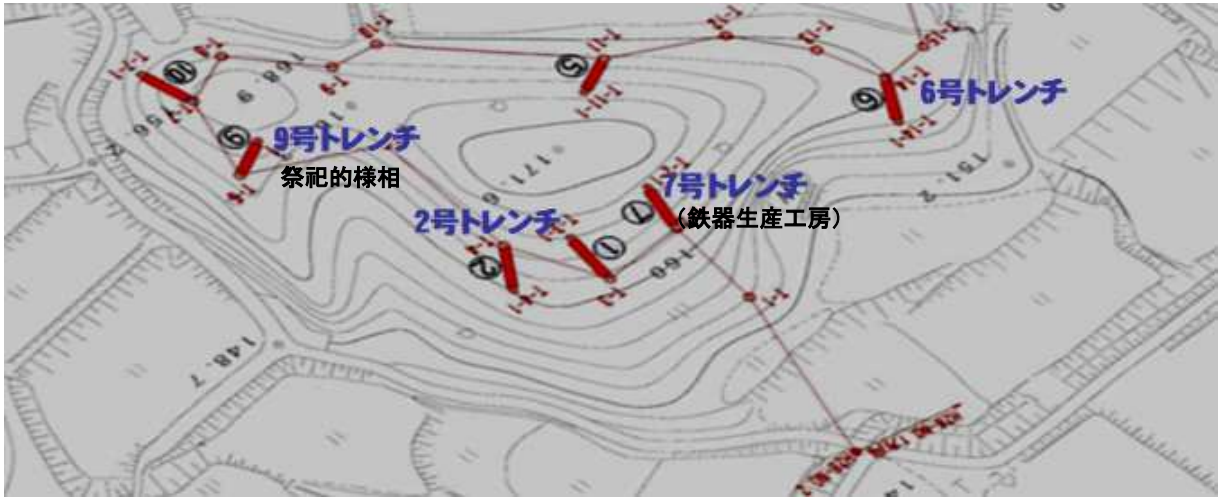
淡路市教委は2月5日午後1時半から、同市小倉の北淡震災記念公園で調査成果報告会「海の民」の関与も推を開く。（切貫弘巳）

「海の民」との関係も推認

近畿で最大規模とみられる鉄器生産跡が見つかった舟木遺跡周辺。現場は木々に囲まれている＝淡路市舟木（撮影・内田世紀）

邪馬台国前の社会、解明期待

多数出土した小型鉄器



平成28年発掘調査地点の丘と鉄器生産・手工業生産工房と見られる竪穴住居が出土した位置

№9 トレンチ

№2 トレンチ全景

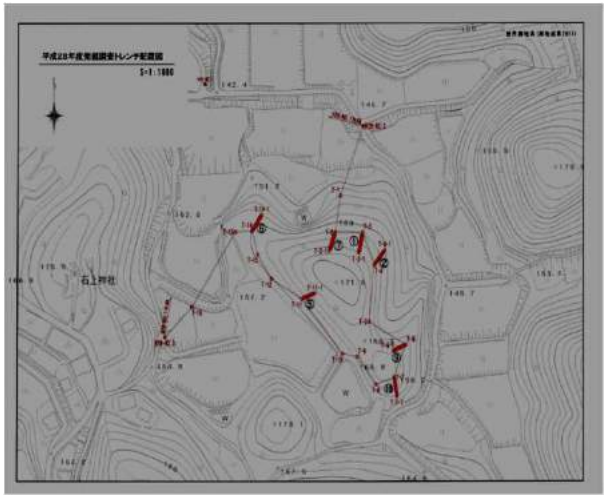
№7 トレンチ

№6 トレンチ

№7 トレンチ焼土面（炉跡）

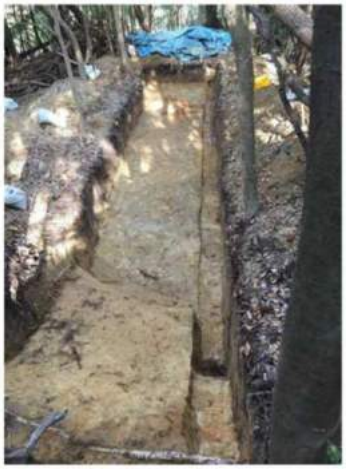
№9 トレンチ土器出土状況

平成28年発掘調査地点の丘と鉄器生産・手工業生産工房と見られる竪穴住居が出土した位置



No.2 トレンチ全景

No.6 トレンチ



No.7 トレンチ

No.6 トレンチ

No.7 トレンチ

No.7 トレンチ焼土面（炉跡）

平成 28 年度舟木遺跡出土鉄器
武器は出土せず　ヤス・釣り針など
小型漁労関係具とその加工工具が多い

No.9 トレンチ

No.9 トレンチ土器出土状況

No.9

今月の クローズアップ 舟木遺跡

*広報*淡路 2018年5月号 2018.5.5.

https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF

近畿初 鉄製ヤスが出土

～平成29年度 舟木遺跡の発掘調査成果を発表～

市教育委員会は、3月22日、平成29年度舟木遺跡発掘調査の成果を発表。魚を突く鉄製漁具「ヤス」や新たな鉄器工房跡などが見つかりました。

弥生時代の鉄製ヤスの出土は近畿で初めてです。航海技術を持つ「海の民」によって、九州北部などからもたらされた可能性があります。

舟木遺跡は、淡路市舟木の山上（標高150㍍～190㍍）に広がる、弥生時代後期～終末期の集落遺跡です。

平成27年度には中国産が出土し、平成28年度には鉄器生産を行った重要な遺跡であることが明らかになっていました。

平成29年度調査では、丘陵頂上部2カ所で発掘を行うとともに、遺跡の構造を明確化するために、三次元レーザー測量による赤色立体地図作成を実施。今回の成果発表となりました。

【出土した遺構、遺物】

鉄製品106点などが出土

遺構

竪穴建物跡2棟、柱穴状遺構4基、段状遺構1基

遺物

①弥生土器（弥生時代後期後半～終末期の土器（甕、壺、鉢、高坏、器台、製塩土器、イイダコ壺など）

②鉄製品106点（微小な鉄片を含む。鉄製ヤス、鉄製釣り針（平成28年度調査で出土）、針状のものなど）

【主な調査成果】

遺跡が北に広がる可能性

昨年度の調査結果と赤色立体地図から、現在確認される平坦面は弥生時代に竪穴建物を建てるために造成された地形の痕跡であったことが確認されました。

周辺にも平坦地形が存在していることから、舟木遺跡の範囲が北側に広がる可能性が出てきました。

弥生期の空間利用構造を確認

遺跡は、鍛冶工房建物を主体とする北尾根エリアと、遺構の希薄な平坦面を中心とする南尾根エリアに分かれます。

南尾根エリアでは、昨年に続き、大量の土器が投棄された状態で出土。北尾根の工房空間に対して非日常的な空間利用の可能性が示されました。

近畿初の鉄製ヤス、兵庫県で2例目の鉄製釣り針を発見

弥生時代の鉄製ヤスは、これまで数例見つかっていますが、近畿地方では初めての出土です。鉄製釣り針も、県下では芦屋市に次いで2例目と貴重です。

山上に広がる木遺跡での鉄器発見は、広範なネットワークを持ち鉄器の交易を行う海民集団との関わりを示す重要な資料になります。

今後は、どこで製作されたかなど、鉄器の分析作業が重要です。

【有識者のコメント】

和田晴吾

兵庫県立考古博物館長

舟木遺跡には、五斗長垣内遺跡などとともに、鉄器の鍛冶工房的な性格が想定される。

当時の日本列島では鉄そのものを作りだすことができなかったため、朝鮮半島南部にそれを依存していた。航海術に長けた海の民が、鉄素材の入手にも深く関わっていた可能性が考えられる。

森岡秀人

関西大学大学院非常勤講師

遺構の配置は機能的、空間ごとに異なった役割を持った中心施設が明らかになってきた。

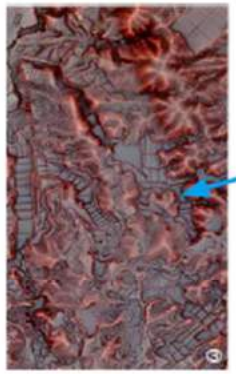
島内では閉鎖性が感得される地形空間にある舟木遺跡が、古墳出現前の時期の生産・祭祀・配送動や遠隔地との技術交流などの拠点で、活発な動きを示していたことが明らかになってきた。

村上恭通

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長

鉄製ヤスの大きさ、かえしの丁寧な研ぎ出しから考えると、その精巧さから輸入品と考えられる。

ヤスと釣り針のセット関係は北部九州、山陰に見られる。漁具を使用する海民の動きが鉄器の交易を促進した。漁具入手には瀬戸内側を伝いまる可能性を考えておく必要がある。



①弥生時代の鉄製漁具「ヤス」
②鉄製の釣り針
③三次元レーザー測量による赤色立体地図。矢印位置が調査場所。北側に遺跡が広がる可能性が出てきた。
④竪穴建物跡。示している場所で炉が見つかった。
⑤まとまって見つかった弥生土器

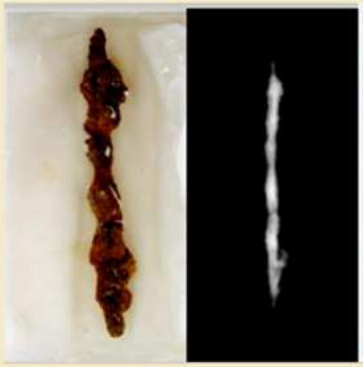
平成29年度　平成28年度と同じ丘陵部　前年度出土した3棟の竪穴住居を見下ろす頂上部で1棟の鍛冶炉のある大型竪穴住居が出土。また本年も104点の鉄器のほか土大量の土器や出土。其の中に鉄製ヤスも含まれていました。　わかに　イイタコ壺や製塩土器もふくまれていました

神戸新聞 Next 2018. 3.23. 記事 書き写し **弥生期の鉄製ヤス出土 淡路で近畿発**

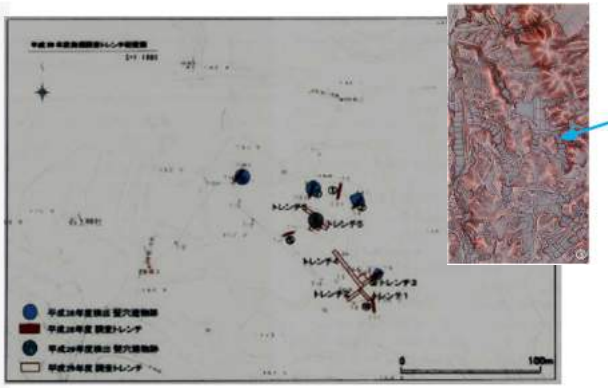
兵庫県淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、鉄製のヤスが見つかり、同市教育委員会が２２日、発表した。弥生期の鉄製ヤスの出土は山陰地方や九州北部で例があるが、近畿では初めてという。標高約１５０メートルの山上にある同遺跡から漁具の鉄器が見つかったことで、同市教委は鉄器流通の背景に、海を往来しながら生活していた「海の民」のネットワークがあったことを示す貴重な資料とみている。
出土した鉄製ヤスは長さ１６・５センチ、幅は最大１・４センチ。全体が錆で覆われていたが、エックス線写真で分析した結果、先端から約１・５センチ下方に「かえし」が見られた。ヤスや釣り針にかえしをつくるには高度な技術が必要といい、鉄器製造が盛んだった九州などから持ち込まれた可能性がある。

また、２０１６年度調査の出土品から、鉄製の釣り針も確認された。弥生期の釣り針の出土は、県内では会下山遺跡（芦屋市）に次いで２例目という。
弥生期の鉄製ヤスや釣り針は、山陰や九州北部で出土する例が多い。愛媛大東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「山陰は九州から鉄製漁具を受け入れ、漁民が鉄器の交易を促進した」と分析。今回の発見で、漁具が日本海側だけでなく「瀬戸内側を伝わって来た可能性もある」と指摘する。

今回の調査で淡路市教委は、３次元レーザーを使って上空から同遺跡の測量も実施。地表面の起伏を詳細に分析した結果、遺跡の範囲が従来より北に約３００メートルほど広がる可能性があることも分かった。
調査成果の報告や出土遺物の展示は２５日午後１時半から、同市小倉の北淡震災記念公園セミナーハウスである。申し込み不要。同公園ＴＥＬ０７９９・８２・３４００



出土したヤス エックス線で撮影した画像には「かえし」があることが分かる（淡路市教委提供 。



トレンチ５（2m×10m）・トレンチ７（2m×6m）

尾根の頂上部に設定したトレンチ５・７で、直径が約８mの竪穴建物跡１棟を検出しました。この建物跡からも小さな鉄器片が出土しており、鍛冶工房と考えられます。壁際の床面が中央部に比べて一段高くなっている高床部を持っており、その上で３か所の焼土面を検出しました。その内の一つは、一部が白色化し、その部分が硬化していることから高温の熱を受けている可能性が高く、鍛冶炉とみられます。南東壁際の幅約２mの範囲に炭や焼土が堆積している部分があり、その部分の周壁溝（壁際の溝）が内側に曲がっている、これまでに例の無い構造であること、さらには、通常、あまり人が暮らすことのない尾根の頂上部に建てられた建物跡で、前年度の調査で発見した鍛冶工房を含む３棟の建物を見下ろす場所に位置していることから、これら工房建物群の中でも特別な役割を担った建物の可能性も想定されます。

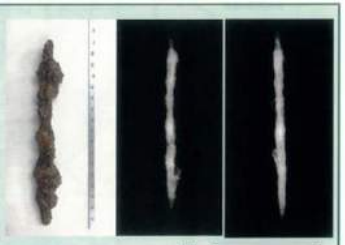
炉跡

竪穴建物跡

（右写真の矢印が炉跡の位置）

鉄製漁具

・鉄製ヤス
全長約１６．５cm、最大幅約１．４cmの棒状の鉄器で、Ｘ線撮影の結果、鋭く尖る先端と丁寧に研ぎ出した逆刺（かえし）が１箇所に認められます。弥生時代のものとしては、近畿地方ではじめての発見となる貴重な鉄器です。トレンチ４から出土しました。



・鉄製釣針（平成28年度出土）
Ｘ線撮影の結果、釣針であることが確認されました。残存長（高さ）約２cmで、胴部からもう一部を欠いています。針先の内側には丁寧な研ぎ出した逆刺（かえし）がある単式の釣針です。
これらの鉄器は、その精巧さから搬入品の可能性が高い鉄器ものと考えられます。

（Ｘ線撮影は愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター）

圃場整備された舟木集落の田園　棚原大池を中心とした舟木遺跡エリアの中央部

中央棚原大池から南側を眺める

西側の舟木集落の丘
手前中央から北側に棚原大池が広がる田園、

良く圃場整備された田園が広がる
棚原大池を中心とした舟木遺跡エリア

周囲を取り囲む丘について部分的に発掘調査がされてきた調査域は　まだごく僅かであり、これからの調査が楽しみである

津名丘陵の山間地集落群がどんなところにあるのか、興味津々でやってきましたが、幾重にも丘が重なる丘陵地の最上部　海岸部が見通せる位置に古くから集落として住み続けられてきた場所。

ゆっくりと舟木遺跡の役割に思いを巡らしながら、周囲の丘を眺めることができました。

帰りは県道157舟木の十字路から舟木の集落の中を抜けてまっすぐ南へ丘陵地を下って、野島に出ることにしました。10:57

弥生時代後期-終末期の淡路島山間地集落群の中心集落「舟木遺跡」概要【1】

平成29年2月　淡路市教委　淡路市国生みプロジェクト「平成28年舟木遺跡発掘調査結果報告」より整理

http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya28/2901/290125funaki.pdf

淡路島北西部の海から約２ｋｍ、標高１５０ｍの内陸丘陵地で、南北約８００ｍ、東西５００ｍの推定４０万㎡の広大な遺跡で、淡路市の丘陵部津名丘陵に点在する約200カ所の弥生時代後期の遺跡群淡路島山間地集落群の中心的集落遺跡。

弥生時代後期の鉄器生産工房を持つ遺跡「五斗長垣内遺跡」から東北に約６ｋｍの位置に、昭和４１年小学生の土器発見により、この弥生遺跡「舟木遺跡」の存在が明らかになり、平成２年から圃場整備事業などの開発工事に伴う発掘調査で、大型の竪穴建物跡、中国鏡の破片や器台、製塩土器、イイダゴ壺などが出土していました。

平成27年淡路島における古代の歴史文化を明らかにしようと始まった「淡路市国生み研究プロジェクト事業」として、平成２８年舟木遺跡の本格的な発掘調査が実施されました。

遺跡発見の端緒となった土器が出現した尾根（約１ha）の７カ所（総調査面積１２８㎡）に設定した幅２ｍのトレンチ（調査溝）のうち、４カ所から竪穴建物跡、５７点にも及ぶ鉄器（小さな針状の工具類や鍛冶に関わるもの）、その他台石、叩石、磨石、砥石などの石器が ４２点出土。

発掘された大型の竪穴建築物跡４棟のうち３棟は直径１０ｍ以上の円形、しかもそのうち１棟は赤く焼けた炉跡４基あって、炉の近くから鉄片が発見され、 鍛冶用と考えられる砥石・敲石など石製工具も発見され、中央部が広く作業に適した工房跡（鉄器製作を行った鍛冶工房）と思われます。

また、４棟全てから鉄器製作用とみられる多数の石器類、鉄器の類がでました。

「舟木遺跡」は、武器類の鉄器が多く出た近隣の「五斗長垣内遺跡」とほぼ同時期に存在していましたが、現在のところ武器類以外の生活用？鉄器が中心で、 「五斗長垣内遺跡」よりも長く鉄器生産を続けていたと考えられています。

平成28年の調査は、広大な遺跡エリアの中心部に位置する狭い尾根に、限定された地点をトレンチするという方式で、全面発掘ではありませんでしたが、これだけ多くの発見がありました。

また、遺跡エリア内に古くから祀られている石上神社の磐座　石上神社周辺からも大型の器台形土器が発見されている。

平成27年度に中国鏡野発見につながった出土遺物の再整理に続き、本年度は遺跡発見の契機となった尾根を対象として発掘調査を行い、限られた調査面積であったにもかかわらず、五斗長垣内遺跡に続き、多数の鉄器が出土し、ほか　大型の工房建物の存在が明らかになるなど、弥生字体の鉄器文化を解明する上で、極めて重要な遺跡である可能性見えてきた。

淡路島北部　弥生後期の山間地集落遺跡群群の中心集落「淡路市　舟木遺跡」
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
2017. 1. 26.　神戸新聞他の朝刊より

鉄器の交易なりわいか

淡路に近畿最大の工房跡

「海の民」との関係も推認

邪馬台国前の社会、解明期待

多数出土した小型砥石

淡路 弥生期の鉄器拠点

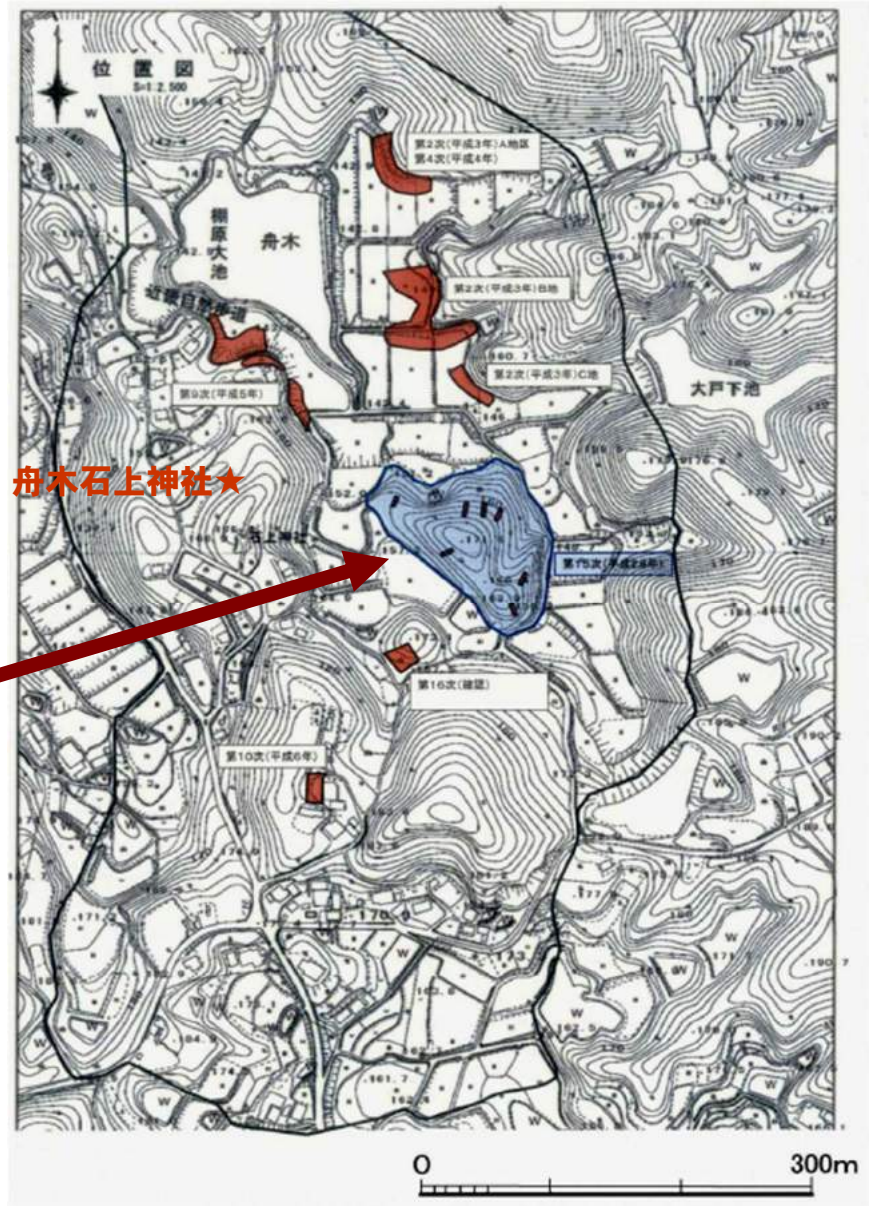
舟木遺跡

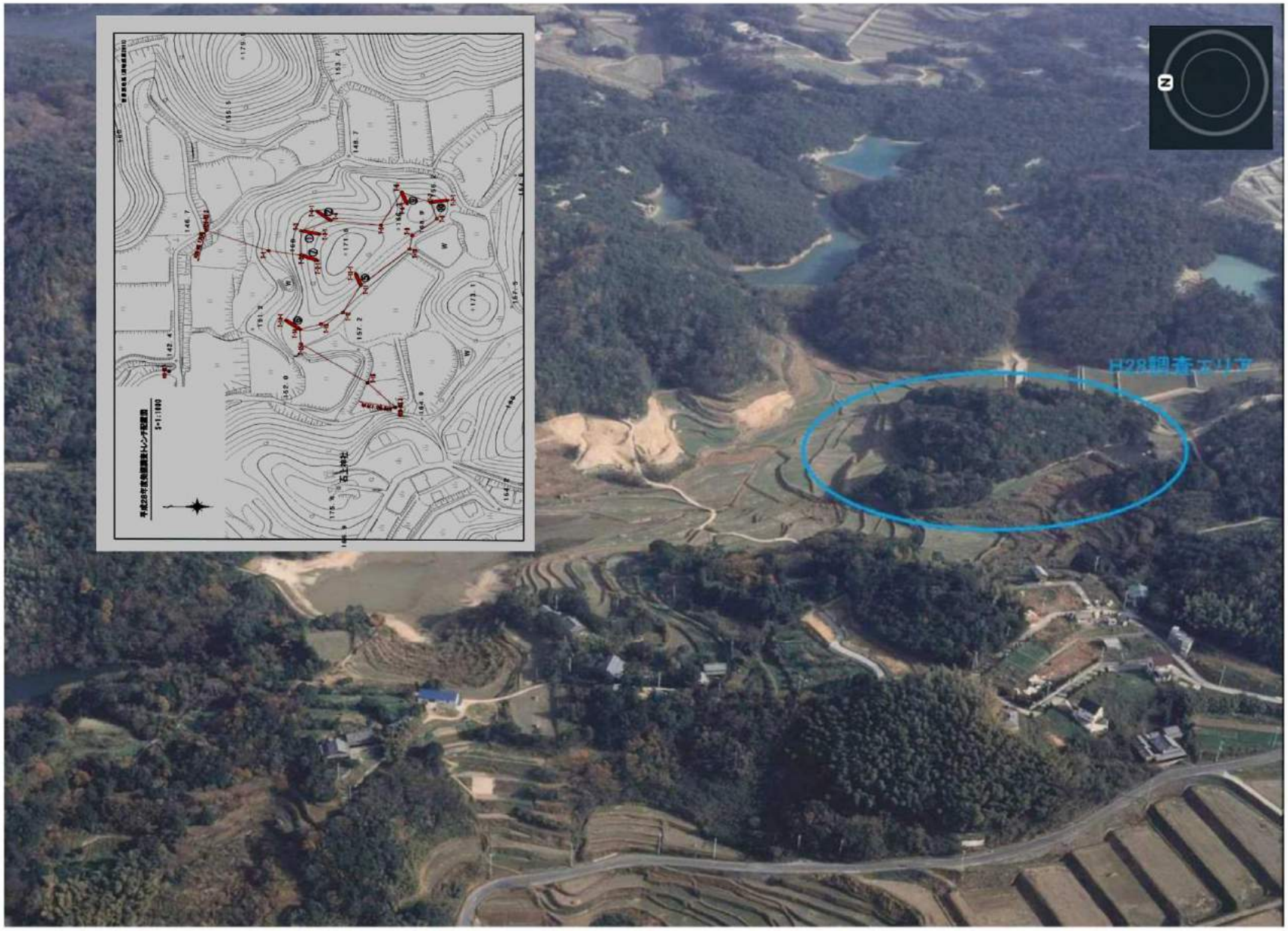
工房跡発見、近畿最大か

「五斗長垣内」近く　小型工具も出土

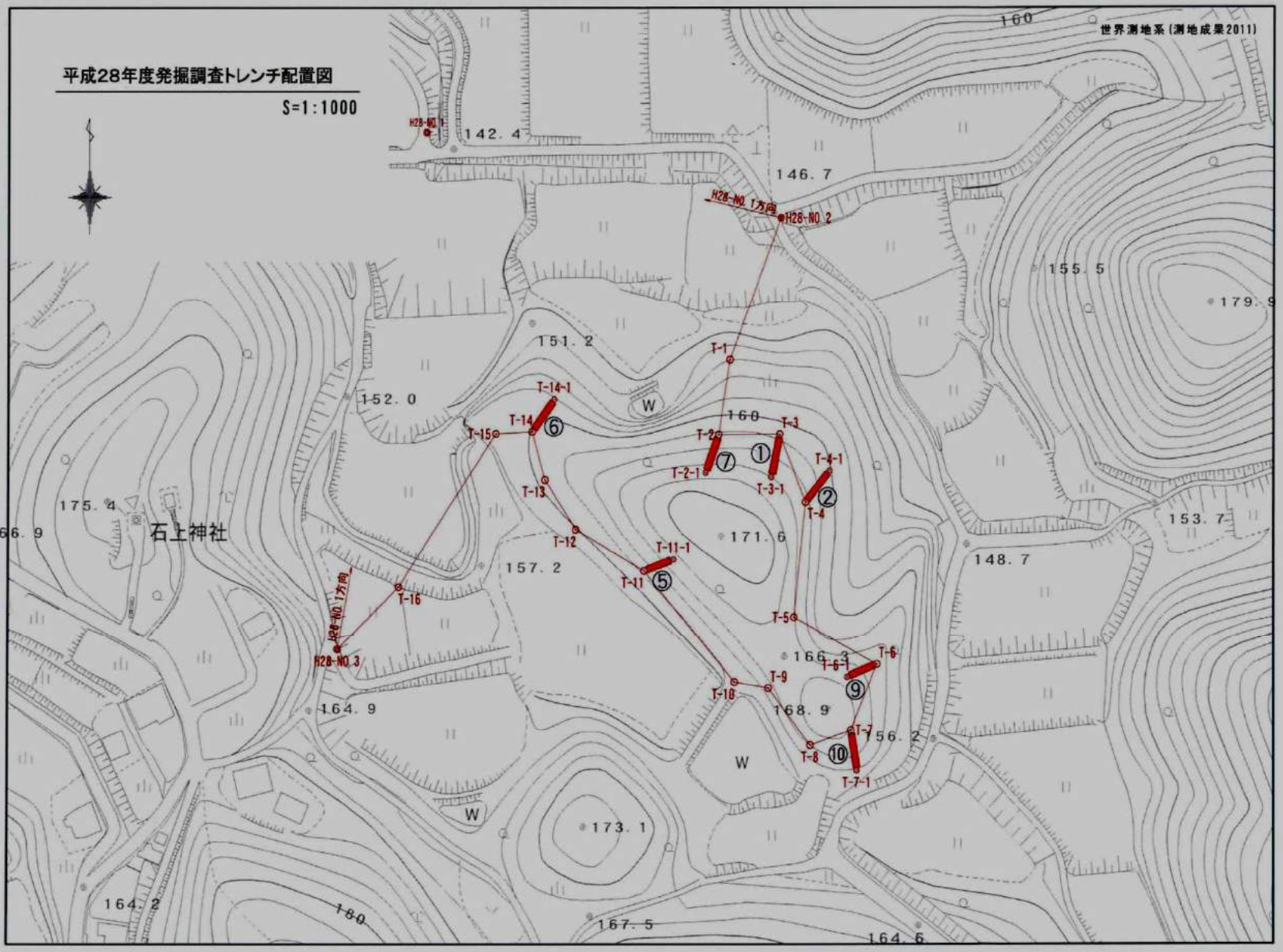
伊藤の跡が確認された工房の遺構。土が赤っぽくなっている＝10日、淡路市舟木（撮影・伊藤博敏）

舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア

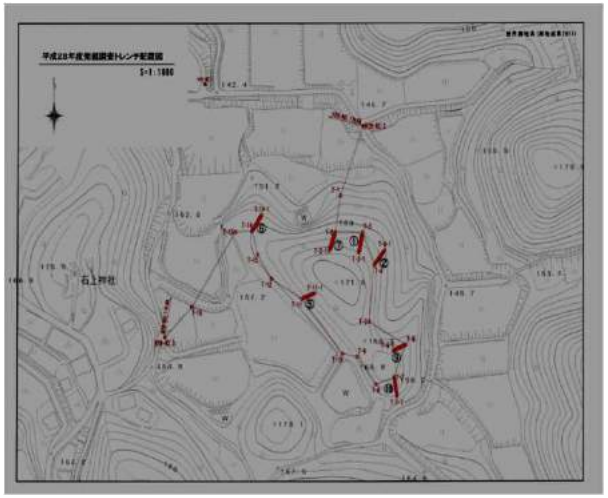




平成 28 年度発掘調査エリア航空写真


平成28年度発掘調査トレンチ配置図
S=1:1000
世界測地系（測地成果2011）
H28-NO.1
H28-NO.2
H28-NO.3
H28-NO.1方向
H28-NO.1方向
T-1
T-2
T-2-1
T-3
T-3-1
T-4
T-4-1
T-5
T-6
T-6-1
T-7
T-7-1
T-8
T-9
T-10
T-11
T-11-1
T-12
T-13
T-14
T-14-1
T-15
T-16
①
②
⑤
⑥
⑦
⑨
⑩
石上神社
142.4
146.7
160
155.5
179.9
151.2
152.0
160
175.4
166.9
153.7
171.6
148.7
157.2
166.3
164.9
168.9
156.2
173.1
164.2
180
167.5
164.6
W

参考図
前ページの平成28年発掘調査域の図を見やすくするため
googleマップ図と重ねました
調査地は私有地なので入れず、道から眺めるのみ
残念ながら調査地内発掘現場は見られずです



No.2 トレンチ全景

No.6 トレンチ

No.7 トレンチ

No.6 トレンチ

No.7 トレンチ

No.7 トレンチ焼土面（炉跡）

平成 28 年度舟木遺跡出土鉄器

No.9 トレンチ

No.9 トレンチ土器出土状況

No.9

有識者のコメント

① 弥生時代後期後半から末（庄内期）の大型の竪穴建物跡４棟を検出し、多数の鉄製品が出土している。今回の調査面積が狭小であることを考えれば、五斗長垣内遺跡をしのぐ鉄製品を有する可能性がある。

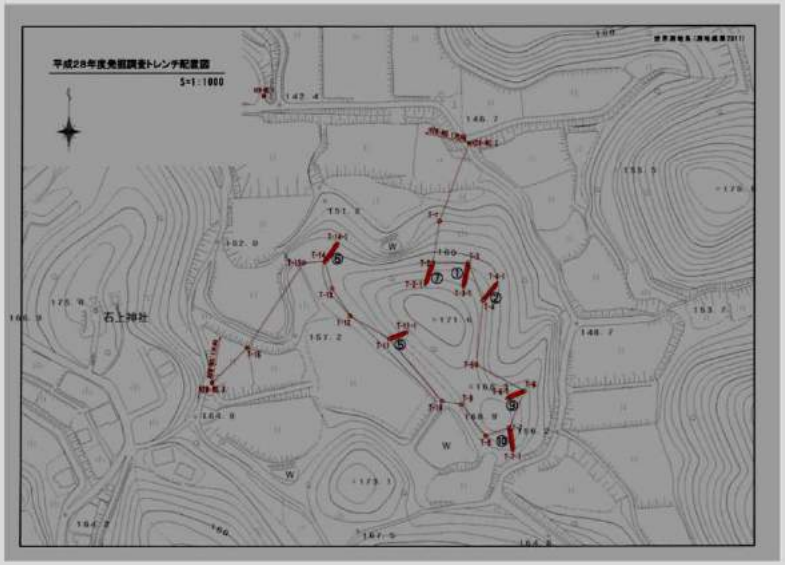
② 出土した鉄製品には鉄器生産（鍛冶）に関連するものと工具類とに分けられる。後者には針状鉄器など、小型の工具類が多く、検出した建物跡にはそれらを使用した何らかの生産工房である可能性が高い。今回の調査範囲には、鉄器生産工房とその他の手工業生産工房からなる大規模な工房群が存在する可能性がある。

③ 今回の調査範囲で検出した工房群のほかにも、谷部を取り巻く尾根上には当時の土地開発の痕跡や数多くの建物群が存在することを想定でき、それらが有機的な関係を持って

④ №９トレンチで検出した一括出土の土器群は、人工的な掘削でできた法面の裾に丁寧に置かれたかのようであり、投棄されたというものではない。その背後の尾根頂上部に展開する平場には工房群を見下ろす重要な遺構の存在を想定させる。

⑤ 島にありながら海から隔絶された内陸に位置するこの集落遺跡は、立地、構造ともに特異であり、海を見下ろす五斗長垣内遺跡とは全く異なる性格をもった遺跡であったと考えられる。

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長
村上恭通



○トレンチ調査の確認結果としては，面積に比し効果的な最大限のよい調査成果だと考える。鉄器に特化した工房群としては，竪穴の形態・大きさ，付属施設の面で蓋然性の高いものであり，淡路島のみならず，近畿地方でも邪馬台国活動期を含めて最大クラスの遺跡とみられる。

○舟木遺跡群はこの時期では島内最大の集住性があることが確実といえ，群とみなすことによって，立地や生産基盤を異にする大和・河内・摂津の巨大遺跡群に匹敵する歴史的評価を与えることが可能となる。当該期では近畿屈指の鉄工房遺跡群であり，北淡路が近畿中央部の集落遺跡とも連動する中，鉄器の製作や保有で有力視されることが従前のこの 10 年の成果を踏まえて立証された。

○中国鏡の早期保有などこの遺跡が周囲の広がり全体を通して，金属器文化の中枢を担い始めたようすがはっきりしてきた。今後の調査に大変期待が寄せられる。また，その中枢には鉢巻的な断続的な環壕もあるようで，大量の祭祀土器などが出土している。丘陵の上部分には金属器工房，鉄器工房とも深く関わる政治的施設や祭祀棟などが発見される可能性も高い。

○銅鐸のマツリに始まった淡路の先駆的な社会動向が南部から北部へと躍動的に変化していく状況も把握され，ヤマトの王権がどの段階からこの島に関与をみせ始めたかについて，考えるべき新たな課題が噴出してきた。

○淡路島北部は近畿中心部に向けての弥生後期の鉄器導入に中継地として大きな役割を果たしてきたと述べてきたが，このたびの調査成果はさらに中継拠点としての地域特性を複数の遺跡が持続的に担っていることを明らかにした点で画期的である。遺跡全体の性格が今後の調査により一段と高まる可能性大である。

奈良県立橿原考古学研究所　共同研究員
森岡秀人

平成２８年度舟木遺跡発掘調査成果一覧表

地区名	遺構				遺物										
					鉄器					石器					
	種別	数	形態	備考	合計	針状	棒状	板状	その他	合計	台石	叩石	砥石	磨石	その他
№１	—	—	—	—	—					15	2	5	2	1	5
№２	竪穴建物跡	１棟	隅丸方形 一辺約4.5m	壁際土坑 建替えあり	23	3	1		19	10		6	3	1	
№５	—	—	—	—	—					1				1	
№６	竪穴建物跡	１棟	円形 直径約9.6m	建替えあり	1				1	1				1	
№７	竪穴建物跡	１棟	円形 炉跡４基	建替えあり	4			4		7		5		2	
№９	竪穴建物跡	１棟	円形		29	7	1	1	20	8		5	1	1	1
	溝状遺構	１条													
№１０	—	—	—	—	—					—					
合計					57	10	2	5	40	42	2	21	6	7	6

弥生時代後期-終末期の淡路島山間地集落群の中心集落「舟木遺跡」概要【2】

平成29年度　淡路市国生みプロジェクト　舟木遺跡発掘調査成果

淡路市教育委員会　2018.　3.15.

金曜日　神戸新聞　（第3種郵便物認可）

弥生期の鉄製ヤス出土

淡路・舟木遺跡で近畿初

淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、鉄製のヤスが見つかり、同市教育委員会が22日、発表した。弥生期の鉄製ヤスの出土は山陰地方や九州北部で例があるが、近畿では初めてという。（渡辺裕司）

出土した鉄製ヤス

エックス線で撮影した画像には「かえし」があることが分かる（淡路市教委提供）

高度な技術 九州などから流通か

標高約150㍍の山上にある同遺跡から漁具の鉄器が見つかったことで、同市教委は鉄器流通の背景に、海を往来しながら生活していた「海の民」のネットワークがあったことを示す貴重な資料とみている。

出土した鉄製ヤスは長さ16・5㌢、幅は最大1・4㌢。全体がさびで覆われていたが、エックス線写真で分析した結果、先端から約1・5㌢下方に「かえし」が見られた。ヤスや釣り針にかえしをつくるには高度な技術が必要といい、鉄器製造が盛んだった九州などから持ち込まれた可能性がある。

また、2016年度調査の出土品から、鉄製の釣り針も確認された。弥生期の釣り針の出土は、県内では会下山遺跡（芦屋市）に次いで2例目という。

弥生期の鉄製ヤスや釣り針は、山陰や九州北部で出土する例が多い。愛媛大東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「山陰は九州から鉄製漁具を受け入れ、漁民が鉄器の交易を促進した」と分析。今回の発見で、漁具が日本海側だけでなく「瀬戸内側を伝わって来た可能性もある」と指摘する。

2018.3.23.　神戸新聞　朝刊

今月の クローズアップ 舟木遺跡

広報淡路 2018年5月号 2018.5.5.

https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF

近畿初 鉄製ヤスが出土

～平成29年度 舟木遺跡の発掘調査成果を発表～

市教育委員会は、3月22日、平成29年度舟木遺跡発掘調査の成果を発表。魚を突く鉄製漁具「ヤス」や新たな鉄器工房跡などが見つかりました。

弥生時代の鉄製ヤスの出土は近畿で初めてです。航海技術を持つ「海の民」によって、九州北部などからもたらされた可能性があります。

舟木遺跡は、淡路市舟木の山上（標高150～190㍍）に広がる、弥生時代後期～終末期の集落遺跡です。

平成27年度には中国産が出土し、平成28年度には鉄器生産を行った重要な遺跡であることが明らかになっていました。

平成29年度調査では、丘陵頂上部2カ所で発掘を行うとともに、遺跡の構造を明確化するために、三次元レーザー測量による赤色立体地図作成を実施。今回の成果発表となりました。

【出土した遺構、遺物】

鉄製品106点などが出土

遺構

竪穴建物跡2棟、柱穴状遺構4基、段状遺構1基

遺物

①弥生土器（弥生時代後期後半～終末期の土器）（甕、壺、鉢、高坏、器台、製塩土器、イイダコ壺など）

②鉄製品106点（微小な鉄片を含む。鉄製ヤス、鉄製釣り針（平成28年度調査で出土）、針状のものなど）

【主な調査成果】

遺跡が北に広がる可能性

昨年度の調査結果と赤色立体地図から、現在確認される平坦面は弥生時代に竪穴建物を建てるために造成された地形の痕跡であったことが確認されました。

周辺にも平坦地形が存在していることから、舟木遺跡の範囲が北側に広がる可能性が出てきました。

弥生期の空間利用構造を確認

遺跡は、鍛冶工房建物を主体とする北尾根エリアと、遺構の希薄な平坦面を中心とする南尾根エリアに分かれます。

南尾根エリアでは、昨年に続き、大量の土器が投棄された状態で出土。北尾根の工房空間に対して非日常的な空間利用の可能性が示されました。

近畿初の鉄製ヤス、兵庫県で2例目の鉄製釣り針を発見

弥生時代の鉄製ヤスは、これまで数例見つかっていますが、近畿地方では初めての出土です。鉄製釣り針も、県下では芦屋市に次いで2例目と貴重です。

山上に広がる木遺跡での鉄器発見は、広範なネットワークを持ち鉄器の交易を行う海民集団との関わりを示す重要な資料になります。

今後は、どこで製作されたかなど、鉄器の分析作業が重要です。

【有識者のコメント】

和田晴吾

兵庫県立考古博物館長

舟木遺跡には、五斗長垣内遺跡などとともに、鉄器の鍛冶工房的な性格が想定される。

当時の日本列島では鉄そのものを作りだすことができなかったため、朝鮮半島南部にそれを依存していた。航海術に長けた海の民が、鉄素材の入手にも深く関わっていた可能性が考えられる。

森岡秀人

関西大学大学院非常勤講師

遺構の配置は機能的、空間ごとに異なった役割を持った中心施設が明らかになってきた。

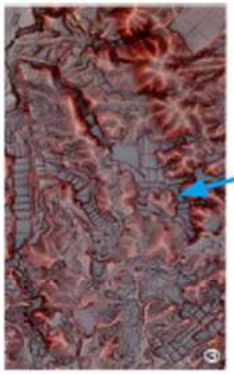
島内では閉鎖性が感得される地形空間にある舟木遺跡が、古墳出現前の時期の生産・祭祀・配送動や遠隔地との技術交流などの拠点で、活発な動きを示していたことが明らかになってきた。

村上恭通

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長

鉄製ヤスの大きさ、かえしの丁寧な研ぎ出しから考えると、その精巧さから輸入品と考えられる。

ヤスと釣り針のセット関係は北部九州、山陰に見られる。漁具を使用する海民の動きが鉄器の交易を促進した。漁具入手には瀬戸内側を伝い来る可能性を考えておく必要がある。



①弥生時代の鉄製漁具「ヤス」
②鉄製の釣り針
③三次元レーザー測量による赤色立体地図。矢印位置が調査場所。北側に遺跡が広がる可能性が出てきた。
④竪穴建物跡。示している場所で炉が見つかった。
⑤まとまって見つかった弥生土器

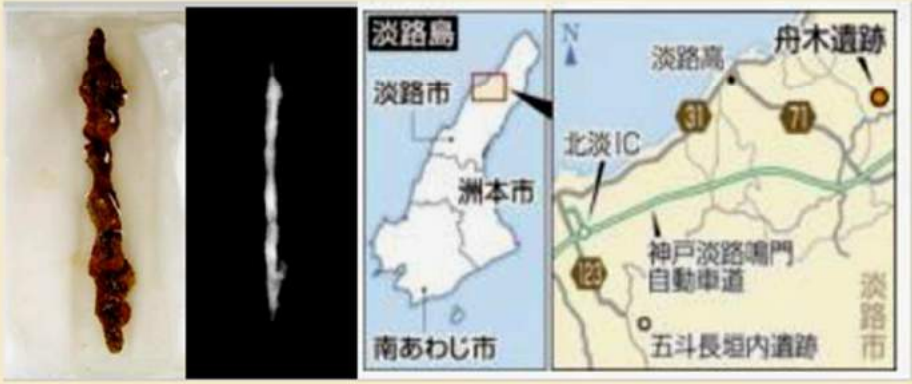
平成29年度　平成28年度と同じ丘陵部　前年度出土した3棟の竪穴住居を見下ろす頂上部で1棟の鍛冶炉のある大型竪穴住居が出土。また本年も104点の鉄器のほか土大量の土器や出土。其の中に鉄製ヤスも含まれていました。　わかに　イイタコ壺や製塩土器もふくまれていました

神戸新聞 Next 2018. 3.23. 記事 書き写し　**弥生期の鉄製ヤス出土 淡路で近畿発**

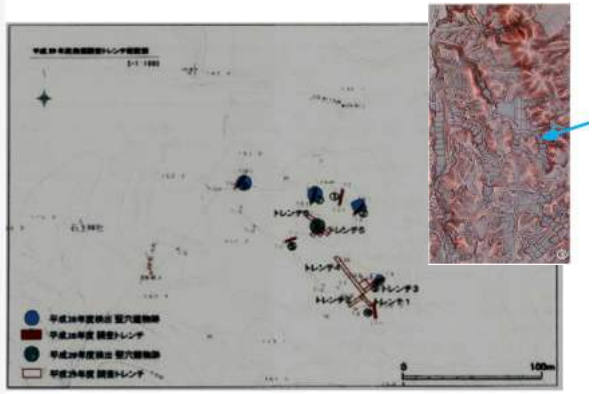
兵庫県淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、鉄製のヤスが見つかり、同市教育委員会が２２日、発表した。弥生期の鉄製ヤスの出土は山陰地方や九州北部で例があるが、近畿では初めてという。標高約１５０メートルの山上にある同遺跡から漁具の鉄器が見つかったことで、同市教委は鉄器流通の背景に、海を往来しながら生活していた「海の民」のネットワークがあったことを示す貴重な資料とみている。
出土した鉄製ヤスは長さ１６・５センチ、幅は最大１・４センチ。全体が錆で覆われていたが、エックス線写真で分析した結果、先端から約１・５センチ下方に「かえし」が見られた。ヤスや釣り針にかえしをつくるには高度な技術が必要といい、鉄器製造が盛んだった九州などから持ち込まれた可能性がある。

また、２０１６年度調査の出土品から、鉄製の釣り針も確認された。弥生期の釣り針の出土は、県内では会下山遺跡（芦屋市）に次いで２例目という。
弥生期の鉄製ヤスや釣り針は、山陰や九州北部で出土する例が多い。愛媛大東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「山陰は九州から鉄製漁具を受け入れ、漁民が鉄器の交易を促進した」と分析。今回の発見で、漁具が日本海側だけでなく「瀬戸内側を伝わって来た可能性もある」と指摘する。

今回の調査で淡路市教委は、３次元レーザーを使って上空から同遺跡の測量も実施。地表面の起伏を詳細に分析した結果、遺跡の範囲が従来より北に約３００メートルほど広がる可能性があることも分かった。
調査成果の報告や出土遺物の展示は２５日午後１時半から、同市小倉の北淡震災記念公園セミナーハウスである。申し込み不要。同公園ＴＥＬ０７９９・８２・３４００



出土したヤス エックス線で撮影した画像には「かえし」があることが分かる（淡路市教委提供 。



トレンチ５（2m×10m）・トレンチ７（2m×6m）

尾根の頂上部に設定したトレンチ５・７で、直径が約８mの竪穴建物跡１棟を検出しました。この建物跡からも小さな鉄器片が出土しており、鍛冶工房と考えられます。竪跡の床面が中央部に比べて一段高くなっている高床部を持っており、その上で３か所の焼土面を検出しました。その内の一つは、一部が白色化し、その部分が硬化していることから高温の熱を受けている可能性が高く、鍛冶炉とみられます。南東竪跡の幅約２mの範囲に炭や焼土が堆積している部分があり、その部分の周壁溝（竪跡の溝）が内側に曲がっている、これまでに例の無い構造であること、さらには、通常、あまり人が暮らすことのない尾根の頂上部に建てられた建物跡で、前年度の調査で発見した鍛冶工房を含む３棟の建物を見下ろす場所に位置していることから、これら工房建物跡の中でも特別な役割を担った建物の可能性も想定されます。

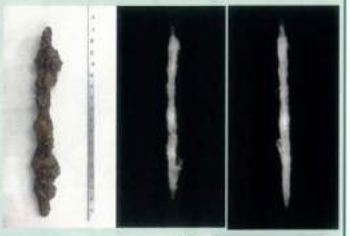
炉跡

竪穴建物跡

（右写真の矢印が炉跡の位置）

鉄製漁具

・鉄製ヤス
全長約１６．５cm、最大幅約１．４cmの棒状の鉄器で、Ｘ線撮影の結果、鋭く尖る先端と丁寧に研ぎ出した逆刺（かえし）が１箇所に認められます。弥生時代のものとしては、近畿地方ではじめての発見となる貴重な鉄器です。トレンチ４から出土しました。



・鉄製釣針（平成２８年度出土）
Ｘ線撮影の結果、釣針であることが確認されました。残存長（高さ）約２cmで、胴部からもも部を欠いています。針先の内側には丁寧な研ぎ出した逆刺（かえし）がある巻式の釣針です。
これらの鉄器は、その精巧さから搬入品の可能性が高い鉄器ものと考えられます。

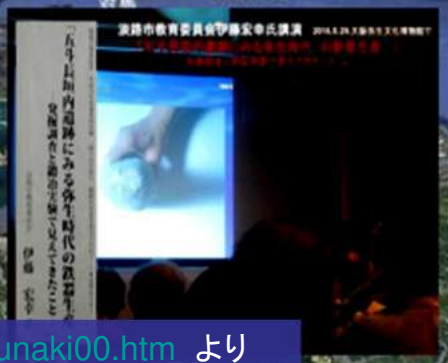
（Ｘ線撮影は愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター）

弥生時代後期　淡路島北部に現れた
淡路島特有の生産工房を有する山間地集落群 & 周辺集落の推移
五斗長垣内遺跡や舟木遺跡もそんな山間地集落群の一つである

2016.5.28. 大阪弥生文化博物館2016年春季特別展セミナー

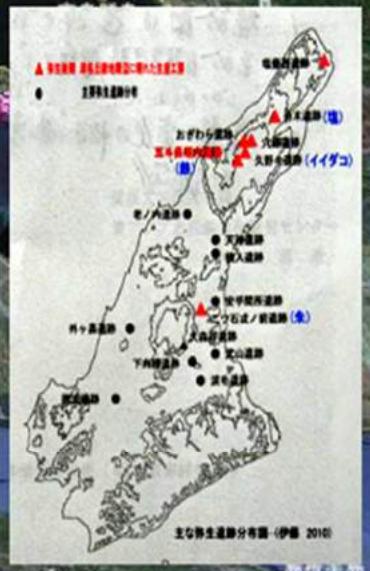
淡路市教育委　伊藤宏幸氏講演資料より

「和鉄の道」 http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm より



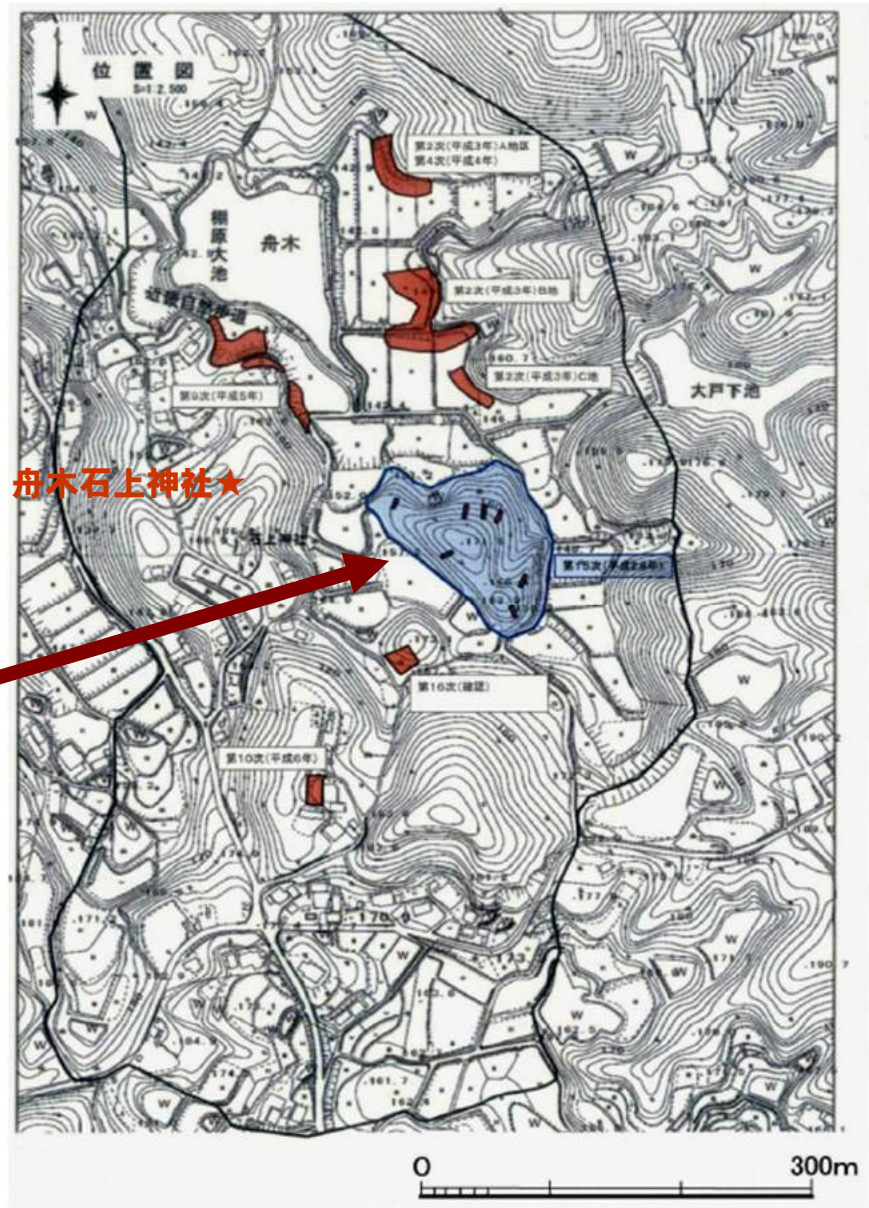
No.	遺跡名	立地（標高）	時期 前期	中期	後期	終末期	特徴
1	天神遺跡	15m	■	■			大陸系磨製石斧、石包丁
2	境入遺跡	10m	■	■			水田
3	舟本下林遺跡	17m			■		
4	伊遺跡	10m					
5	富島遺跡	5m					製塩土器
6	畑田遺跡	5m					製塩土器
7	貴船神社遺跡	5m				■	製塩土器
8	五斗長垣内遺跡	200m			■		敲き遺構・鉄器・赤色顔料・イイダコ壺
9	舟木遺跡	190m			■	■	大型穴建物跡・製塩土器
10	山ノ神遺跡	197m			■		合石・鉄器
11	神ノ平遺跡	210m			■		大型穴建物跡・合石・鉄器・イイダコ壺
12	穴郷遺跡	260m					イイダコ壺
13	久野々遺跡	270m			■		袋状鉄斧
14	おぎわら遺跡	260m			■		ヤリガンナ
15	大坂遺跡	100m			■		製塩土器・土錘
16	行合野遺跡	105m			■		製塩土器
17	秀山遺跡	122m			■		大型穴建物跡
18	尼ヶ岡遺跡	130m			■	■	
19	塩壺西遺跡	60m			■		大型鉄鏃・鉄土坑
20	塩壺遺跡	40m			■		

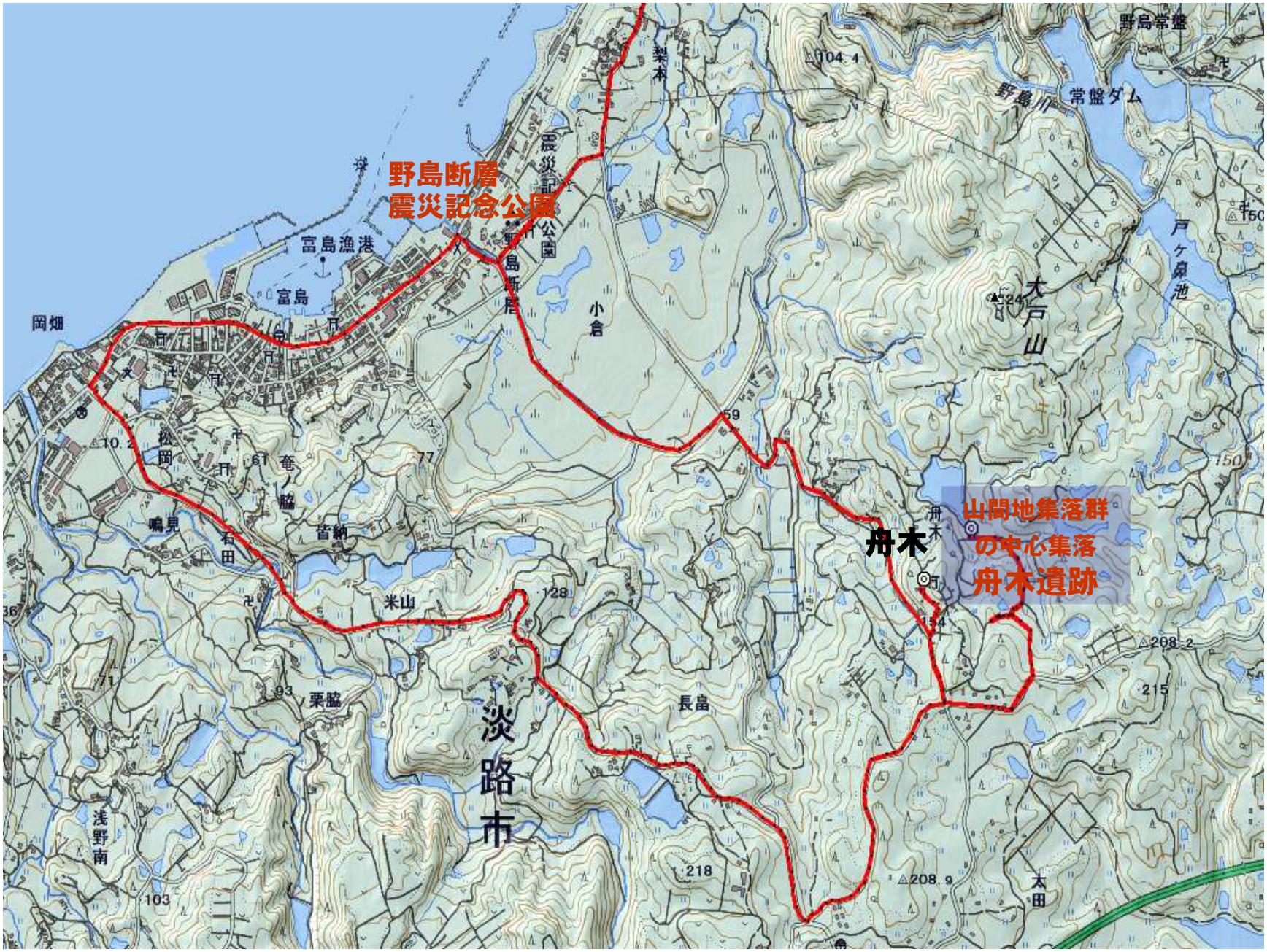
凡例　■…遺構を検出　…遺物が出土



津名丘陵周辺　稲作が行えぬ高地に出現した軍事的性格を持たぬが、
生産工房など多様な生活様式を営む弥生時代後期の集落遺跡群。
島では海岸よりもく山間地を貫く方が幹線道路として機能しやすかった事情で生まれたとする向きもあり、
流通の拠点集落と考えられている　五斗長垣内遺跡も山間集落群の一つ
また舟木遺跡は終末期までも続く山間地集落遺跡の中心とみられている。

舟木遺跡の位置と遺跡エリア




野島断層
震災記念公園
山間地集落群
の中心集落
舟木遺跡
舟木
淡路市
富島漁港
富島
岡畑
松岡
鳴見
石田
皆納
米山
栗脇
長畠
小倉
梨本
野島常盤
常盤ダム
野島川
戸ケ谷池
太戸山
太田
浅野南
104.1
124
150
59
77
61
128
154
208.2
215
208.9
218
103
93
71
36

:県道157号線を舟木集落へ引き返す　2018.8.29. 11:2

帰りは舟木集落から、津名丘陵をまっすぐ南の野島へ　　2018.8.29.
集落を抜けて急な坂道を下りました

津名丘陵　舟木集落から眺める野島海岸遠望　　2018.8.29.

舟木集落の下へ　急な坂をジグザグに下る　　2018.8.29.
野島から津名丘陵を眺めに途中まで登ったところだった

野島の上の傾斜地　ジグザクの坂道の上の津名丘陵の最上部にある舟木集落を眺める【1】
2018.8.29.　　11:05

野島の上の傾斜地　ジグザクの坂道の上の津名丘陵の最上部にある舟木集落を眺める【2】
2018.8.29.　　11:05

北淡震災記念館　駐車場からながめる津名丘陵　舟木集落周辺　2018.8.29.　11:18

卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に

弥生時代後期　津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.

1. 淡路島の西北部海岸　野島海人の郷　野島
弥生後期の製塩工房　貴船神社遺跡　淡路市野島大川
2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点
弥生後期 鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木

国生みの島 淡路島
淡路島北部を南北に走る津名丘陵　その西北域の海岸は航海術にたけた古代野島海人の里
航海術にたけ、朝鮮半島・日本各地と交易する淡路の海人の大和との密接な関係が記紀に記載されている
（淡路島の海人のルーツは安曇族といわれ、
国生み神話の原型もこの海人たちの伝承を初期大和王権が取り込んだとの説もある。）
また.この弥生後期からは古墳時代初期にかけ、背後の丘陵には「舟木遺跡」を中心に山間地集落群が出土し、集落には海人と密接な関係を示す鉄器加工・製塩などの生産工房があり、交易拠点の姿が浮かび上がってきている。
鉄製産技術がなく、朝鮮半島の鉄に頼るこの時代　淡路島は畿内に先駆け鉄器文化を持ち込み、その生産拠点として　国づくりの先端を走った実像が見えてきた
国生みの神話が実像に　淡路島が今注目されている。
国内最大級の鍛冶工房村　五斗長垣内遺跡の出土以来　何度もでかけたこの淡路島北西部沿岸の丘陵地ですが、五斗長垣内遺跡以外に山間地集落周辺を歩いたこと無し。
ぜひとも　舟木遺跡周辺を歩いてみたいと期待をつのらせながら、この夏の終わり淡路島へ

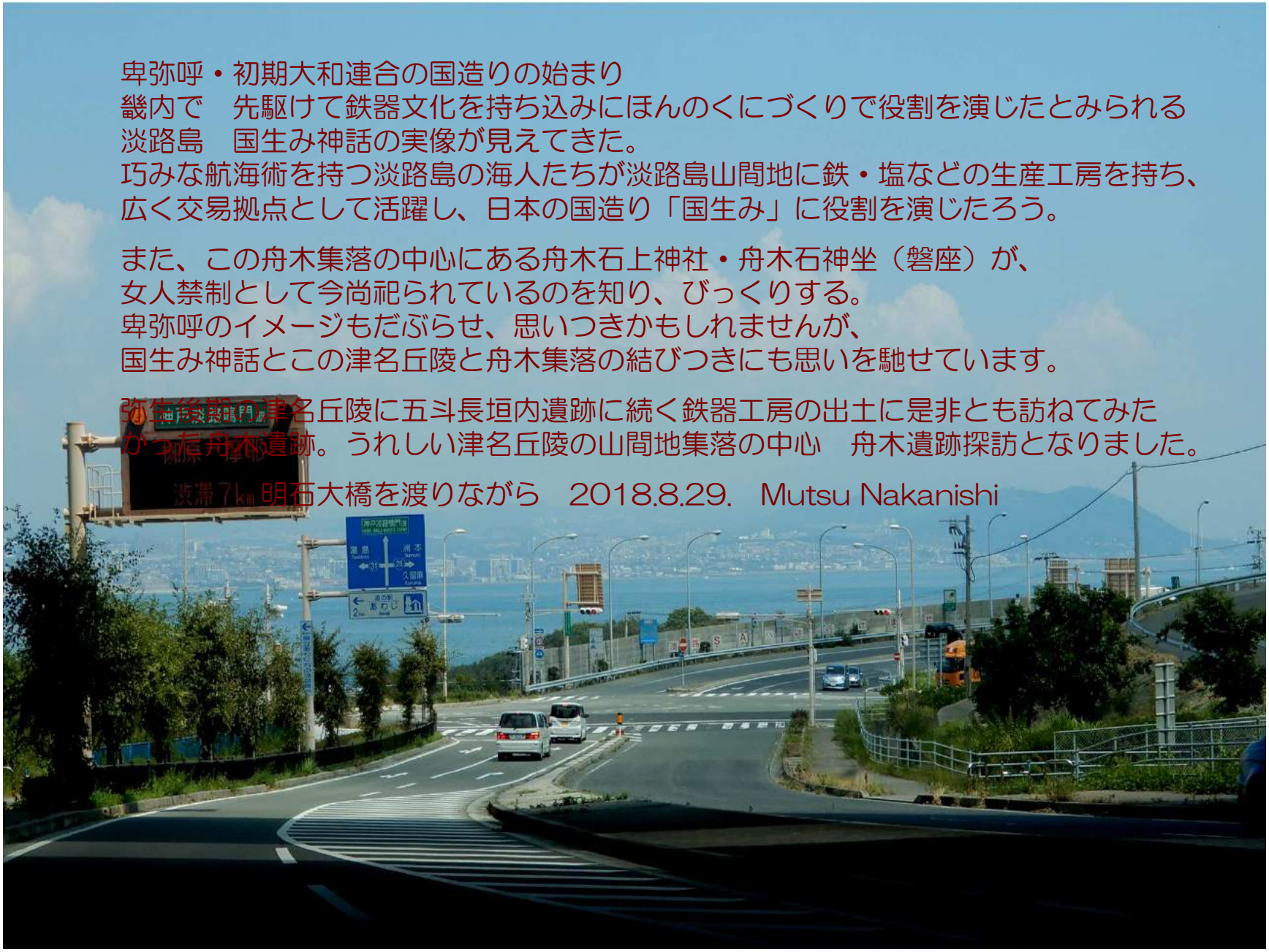
明石海峡越しに旗振り山から眺める淡路島北部中央を南へ伸びる津名丘陵

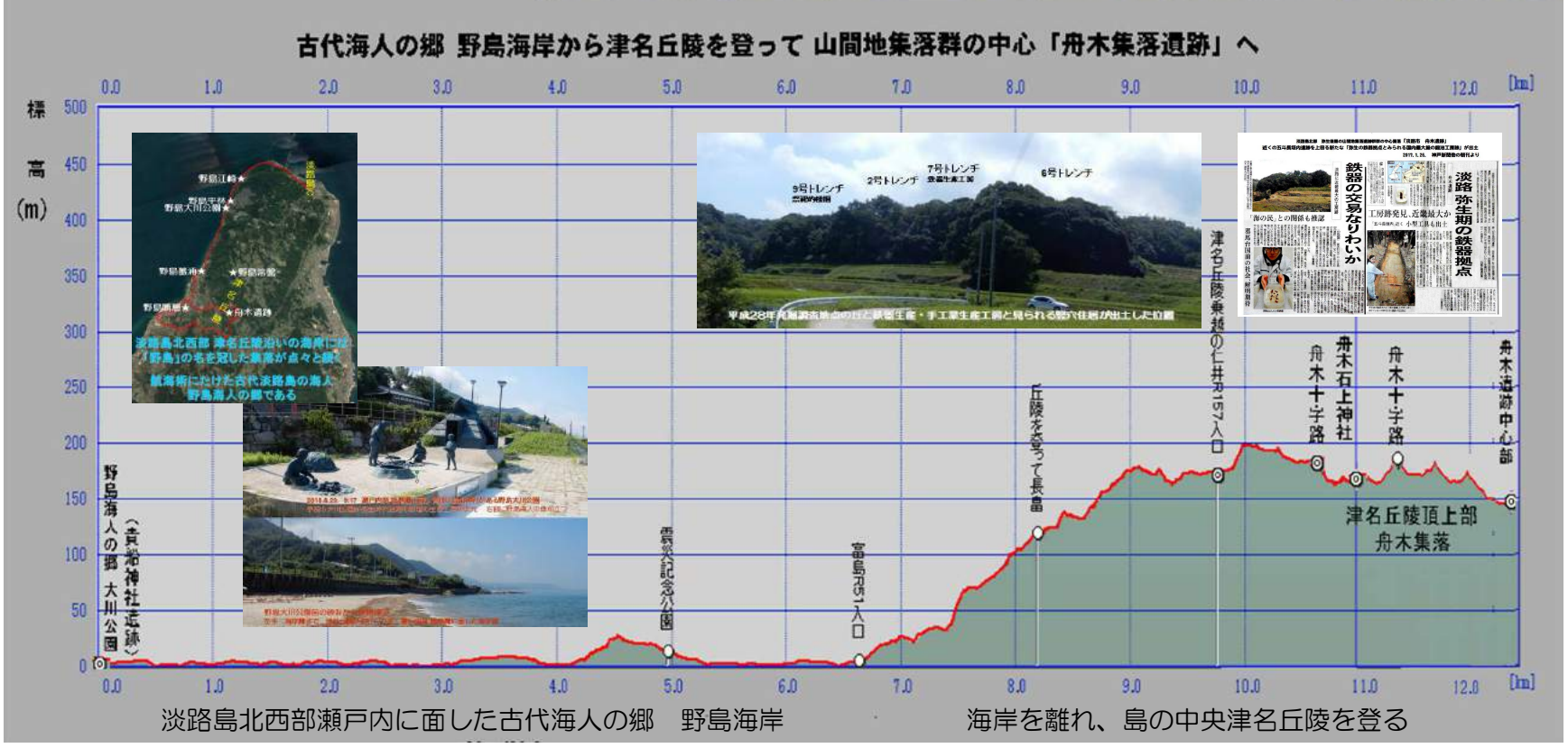
卑弥呼・初期大和連合の国造りの始まり
畿内で　先駆けて鉄器文化を持ち込みにほんのくにづくりで役割を演じたとみられる
淡路島　国生み神話の実像が見えてきた。
巧みな航海術を持つ淡路島の海人たちが淡路島山間地に鉄・塩などの生産工房を持ち、
広く交易拠点として活躍し、日本の国造り「国生み」に役割を演じたろう。

また、この舟木集落の中心にある舟木石上神社・舟木石神坐（磐座）が、
女人禁制として今尚祀られているのを知り、びっくりする。
卑弥呼のイメージもだぶらせ、思いつきかもしれませんが、
国生み神話とこの津名丘陵と舟木集落の結びつきにも思いを馳せています。

弥生後期の津名丘陵に五斗長垣内遺跡に続く鉄器工房の出土に是非とも訪ねてみたかった舟木遺跡。うれしい津名丘陵の山間地集落の中心　舟木遺跡探訪となりました。

明石大橋を渡りながら　2018.8.29.　Mutsu Nakanishi





淡路島北西部瀬戸内に面した古代海人の郷　野島海岸　　海岸を離れ、島の中央津名丘陵を登る

卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に
津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.

「弥生の後期から終末期にかけて　畿内に先駆け、鉄器文化を持ち込み、交易を通じて国造りに役割を演じたとみられる淡路島の海人たちの活躍の場がどんなところだったのだろうか？」と好奇心一杯で、野島の海人の郷といわれる淡路島北西部海岸や　海人たちと密接な関係にあったと考えられる津名丘陵の山間地集落群の中心舟木遺跡周辺の現地探訪の様子をスライド動画にしました。

この「国生み島・淡路島」の実像についての私の集めた資料は
このスライド動画と合わせて　　PDF fileにして　添付しています。

1. **概要文献資料**　津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.
   国生み神話の淡路島が　卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす?
   - ◎　**淡路島北部　瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷　淡路市野島　史料**
   - ◎　**舟木遺跡　最近の新聞トピックス並びに発掘調査資料**
2. Photo　アルバム
   津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.
3. 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】 関連資料整理　リスト
   - ◎　和鉄の道・Iron Road :掲載リスト
   - ◎　インターネットほかから　収録した関係資料リスト

by　Mutsu Nakanishi

県道71号　長畠集落から眺める津名丘陵の山腹に広がる棚田　2018.8.29.　10:04

■ 和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi 【1】

1. 卑弥呼の時代を解き明かす? 2018.3.23. 神戸新聞より
   淡路島弥生後期の大山間地集落群淡路市舟木遺跡 .
   弥生期の鉄製ヤスが出土 海の民や北部九州とのつながりを示す?
   ■PDF : http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018iron/18iron03.pdf
2. 淡路島弥生時代の鉄器拠点「淡路市 舟木遺跡」鉄器の交易をなりわいか?
   近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点 国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
   ■html : http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm
   ■PDF : http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/2017iron/17iron01.pdf
3. 大阪弥生文化博物館2016年春季特別展第3回考古学セミナー
   淡路市教委 伊藤宏幸氏講演「淡路島 五斗長垣内遺跡にみる弥生時代の鉄器生産」
   聴講 まとめ by Mutsu Nakanishi 2016. 5.28
   ■html : http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607awaji00.htm
   ■PDF : http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016iron/16iron07.pdf
4. 淡路文化資料館 淡路市教育委員会 伊藤宏幸氏講演資料 2015.12.12.
   「淡路島の弥生時代と山間地集落 五斗長垣内遺跡と舟木遺跡」
   ■PDF : http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funakiR3awajiregime.pdf
5. 弥生後期から卑弥呼の時代へ ベールを脱いだ「弥生のIron Road 和鉄の道」
   淡路島 五斗長垣内遺跡の謎 シンポ 2010.11.21. 聴講 して
   ■html : http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012gossa00.htm
   ■PDF : http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron14.pdf
6. 弥生時代から卑弥呼の邪馬台国・大和初期王権へ 国家形成の時代を動かした「鉄」
   2010 年秋 関西各地で開催された特別展とそのシンポジュウム & 連続講演会 聴講まとめ
   無手勝流で 鉄をキーワードに 弥生から邪馬台国・大和王権への変遷を整理
   ■html : http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012hmko00.htm
   ■PDF : http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron13.pdf

■ 和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi 【2】

7. 淡路島 秋帆銅鐸は出雲と同じ鋳型の兄弟銅鐸 **2016.10.14. .**
国生神話の出雲・淡路は強い結びつき
■PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016iron/16iron14.pdf

8. 「伊弉諾神宮 国生み神話の島」 淡路島で 大量の埋納銅鐸出土【1】
2015.5.20. **大和の進出による新旧勢力交代による 国づくりの始まりを示すのか ???**
国譲り神話の出雲の大量の埋納銅鐸出土（加茂岩倉・荒神谷遺跡）とそっくり
■html： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1506doutaku00.htm
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/2015iron/15iron10.pdf

9. 「伊弉諾神宮 国生み神話の島」淡路島で大量の埋納銅鐸出土【2】 **2015.7.1**
南淡路でみつかった埋納銅鐸 松帆銅鐸 （弥生時代前期末～中期前半）
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/2015iron/15iron11.pdf

■ インターネット他 参考資料

国生み神話の淡路島が 卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす?

1. **概要資料** 淡路島日本遺産 **弥生時代後期の山間地集落群の中心舟木遺跡 2018.8.25.**
◎ 淡路島北部 瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷 淡路市野島
◎ 畿内に先駆けて鉄器文化を取り入れ、
鉄器加工や製塩など生産工房群を展開した山間地集落群の中心 舟木遺跡
■PDF http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/14iron/1809awajifunakiwebkensaku.pdf

2. 平成28年度 舟木遺跡の発掘調査成果について 淡路市教育委員会 2017.1.24.
資料アレンジ整理しました
■PDF： http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya28/2901/290125funaki.pdf

3. 平成29年度 舟木遺跡の発掘調査成果について 淡路市教育委員会 2018.3.25.
資料アレンジ整理しました
■PDF：https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/life/22931_51066_misc.pdf

4. *広報*淡路 2018年5月号 近畿初の鉄製ヤスが出土 2018.5.5.
■PDF : https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF

卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に
津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.

国生みの島 淡路島　弥生後期の淡路島北部の津名丘陵
海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ山間地集落群が出土

毎日　明石海峡越しに眺める　淡路島　津名丘陵
国生みが現実に!!
でも　調査はまだ　これから　　楽しみにしています

2018.9.5.　Mutsu Nakanishi

弥生期の鉄製ヤス出土
高度な技術 九州などから流通か
淡路・舟木遺跡で近畿初
2018.3.23. 神戸新聞　朝刊

淡路島北部　弥生後期の山間地集落遺跡群の中心集落「淡路市　舟木遺跡」
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
2017. 1. 26.　神戸新聞他の朝刊より
淡路・弥生期の鉄器拠点
工房跡発見、近畿最大か
「五斗長垣内」近く 小型工具も出土
鉄器の交易なりわいか
「海の民」との関係も推認
邪馬台国前の社会、解明期待

明石海峡越しに旗振り山から眺める淡路島北部中央を南へ伸びる津名丘陵